

英語がいつまでも  
わからないのは  
学んだ文法のせい  
なのかもしねない



だから  
この本を書きました。



すべての日本人に贈る  
「話すため」の英文法

# 一億人の 英文法

東洋学園大学 教授

大西 泰斗

慶應大学 教授

ポール・マクベイ

# SAMPLE



東進ブックス

## ■ 「一億人の英文法サンプル版」について

み

なさんこんにちは。「一億人の英文法」、著者の大西泰斗です。「一億人の英文法」は発売からすでに半年。すでにたくさんのみなさんに、手に取って戴いています(^^)v 胃薬飲みながら3年半。がんばってよかったですなー。

数

十年前から「日本人は読めるけど話せない」と、私たちは後ろ指をされまくってきましたが、それは当然のこと。「話すための文法」がなかったからです。日本人が「読め」たのは、今までの学校文法の成果です。「なんでこんなにたくさん規則作るかなあ」「どうして on にこんなに日本語訳があるんだろう」と散々悪口を言いながらも、なんとか私たちが英語を読めるのは、学校文法の規則と日本語訳のおかげです。とりあえずは感謝ですね。

で

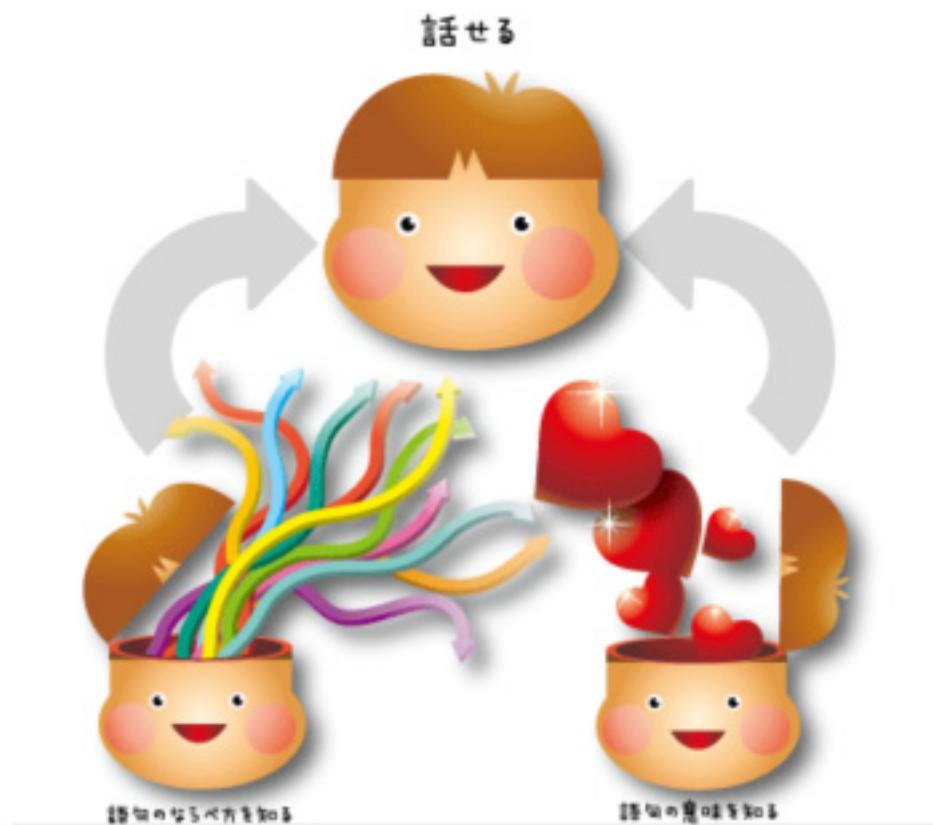
もね。もうそんな時代じゃないんだよ。優秀な成績で受験英語をクリアしたビジネスマンだって話せなくて苦しんでいるのです。読めるだけの、話せない英語に価値はないってことですよ。



さて、それではどうしたらいいのでしょうか? — 答えは簡単。英語能力は学んだ文法によって決まります。だったら「読めるだけ」の文法を「話すこともできる」文法に変えればいい。それが「一億人の英文法」。学習英文法を根本的に変える初めての総合英文法書です。「読む」よりもはるかに高度な、「話す」ためのエッセンスを詰め込みました。

1

億人の英文法は、今までの細かな「文法規則」と「日本語訳」で作られた読み解きスペシャルな英文法を、覚える必要がないほど単純な「語句の並べ方」と、話すために詳細に解説された「語句の意味」に置き換えた文法です。この文法をしっかりと熟読すれば、英語に対する誤解とたくさんの「?」が解決し、みなさんは英語の実践に向けて万全の準備をすることができるでしょう。だってことばは結局、「並べ方」と「単語力」だからね。



まーこんな絵ばっか描いて遊んでるから原稿遅れるんだよなあ。

さて、この「一億人の英文法サンプル版」は、「一億人の英文法が気になってるんだけど、高いから二の足を踏んでいる」方々のために用意しました。直接のきっかけは「公営図書館で貸し出しが8ヶ月待ちになります」という書き込みを見たから。1890円ってのはやっぱり高いからね。自分に合うかどうか確かめようと思っている人が多いのでしょう。「サンプルさえあれば、ムダに待つ必要もなかろう」と思ったのでした。

サンプル版は、全体のリズムや説明の仕方・深さがわかるように、本書で典型的な部分を抜き出してまとめました。

気に入れば買えばいいし、気に入らなかったら自分に合う文法書を探してくださいね。判断を保留している時間が一番もったいないんです。ことばの学習は「思い立ったが吉日」だからさ。

それでは、サンプル版、お楽しみくださいね。

大西泰斗

---

-----サンプル版ダウンロード-----

サンプル版は、

- ① 「本書の特徴」「目次」
- ② 「0章英文法の歩き方」
- ③ 「PART 1-CHAPTER1 主語・動詞・基本文型」から「基本文型（抜粋）」
- ④ 「PART 1-CHAPTER2 名詞」の冒頭部
- ⑤ 基本表現のイメージによる説明（動詞・前置詞・副詞[一部抜粋]）  
「助動詞・意味の連関」（図のみ）

から成り立っています。順にダウンロードしてください。②からは本書がどうやって「話せる英語」を達成しようとしているのかが、③～④からは、体系的な理解を促すためにどういった説明手法を取っているのかが、⑤からは、「話せる」レベルの語彙知識の解説がどのようなものであるのか、それぞれ理解していただけると思います。助動詞の図は、単に絵が気に入ってるから。趣味です。

とくに②は、英語文法全体の見通しについて解説しております。これだけでも、英語理解がずいぶん進むはずです。お見逃しなく！

---

# 本書の特徴・使い方

## SPECIAL FEATURES & HOW TO USE

本書は、これまでの文法書とは異なった目的と特徴をもっています。「異なった目的」とは「英語を話す」ということです。従来の文法書は、英語を読み、聴き取ることに重点が置かれてきました。だからこそ、「it は『形式主語』であり、真主語は to 不定詞以下である」などといった「ゆるい」説明が羅列されてきたのです。

こうした「説明」も、英文を理解する助けにはなるのかもしれません。ですが、「話す」ことにはまるで役に立ちません。母国語話者（ネイティブスピーカー）は誰一人としてそうした知識に基づいて英語を話しているわけではないからです。——そうやって、現在の「英語を話せない日本人」は生み出されてきました。

英語を話すために必要なのは、ネイティブの意識です。彼らが単語を使うとき、文を作るときどういった意識でそれを行っているのか、それを知りコピーする。それが英語を話し、そして彼らと同じ簡便なやり方で読み、聴きとるための要諦なのです。

英語を話す——この目的を実現するために、私は本書に、従来の文法書にはないいくつかの特徴を与えました。

## 本書の特徴

### ① 文法用語からの解放

文法用語は体系と共に変わります。話すための新しい文法である本書には、多くの古い用語は不要です。その結果、この本では日常語の域を出る特殊な文法用語はほとんど出できませんでした。みなさんは使えない文法用語を学ぶための不毛な時間を使うことなく、安心して英語理解に邁進することができます。

### ② 文を作るための簡単な原則を解説

英語は「配置のことば」です。文のどこに要素を配置するかが大変重要なことです。簡単な配置原則を知ることによって、容易に英語文を口にすることができるようになります。本書の文法体系はこの配置原則に貫かれています。いくつかの簡単な原則をつかむことによって、さまざまな文法事項を自然に・深く・効率的に理解し、使いこなすことができるようになります。

### ③ 項目の順序性

従来の文法書は、「英語百科辞典」を意図しています。その結果すべての項目は特に学習順序を意図することなくバラバラに並んでいます。それに対し本書は、英語を理解する為に最適な順に項目を並べています。Chapter 1が最も本質的に重要な章。この箇所だけでも読み終われば、英語がグッと身近に感じられるはずです。

### ④ すべての形に意識を通わせました

従来の文法書で紹介してきたさまざまな文には、それが使われる特有の意識があります。その意識を学ばずに「it...for...to」「使役構文」「SVOO」などと形だけを学んでも、それほど実践の役には立ちません。文は常に心を起点として形作られるのですから。本書は、代表的な文の形すべてに「こういう気持ちでこの文は作られているんだよ」という意識を与えています。そうやって話せる英語を目指すのです。

### ⑤ すべての表現に意識を通わせました

日本語と全く同じように、英単語など英語表現にもそれを使う意識が常に伴っています。some, several, a number of は「いくつもの」と訳すことが可能ですが、訳を覚えるだけでは会話で使うことなどできません。どういった意識で発せられる「いくつもの」なのかを知る必要があります。本書では紙数の許す限り、会話で自信をもって使えるように意識・ニュアンスまで踏み込んだ解説をほどこしました。また特に習得が難しい「基礎語」と呼ばれるものについては、セクションを設けまとめて説明をしています。あなたの英単語の本当の意味にきっと驚かれるはずです。

## ⑥「なぜ」に答えました

従来の文法書では、単に文法現象が羅列され、どうしてそんなことが起こるのか、ネイティブはどう意識しているのかがおざなりにされるケースが目立ちます。本書では可能な限り、学習者が抱く「なぜ」にお答えしています。本書を読み終わる頃には「英語には理不尽な規則などない」と思って戴けるのではないかでしょうか。

## ⑦実用に役立つ例文

話せる英語を目指す本としてはあたりまえのことですが、本書の例文はほぼすべて（意図的に古いあるいは不自然な使い方を提示する場合を除き）完全に実用に足る自然な文です。文法書によつては現在ほぼ使われない古い形式にページを費やしていることもあります。どう考へても「誰が言うんだよ」などという文が並んでいることすらあります。それに対し本書には「明日会話で使える」文が並んでいます。また、今回はクリス（共著者）に、大学受験でよく使われる単語を多用するようにリクエストしました。もちろん市販の大学受験単語集では、「いつ使うんだよ」というような単語もたくさん並んでおり、こうした単語は避けておきましたが。

## ⑧イラストの多用

外国語学習では、しばしばネイティブに絵を描いて賣うだけでスッと意味が納得できることがあります。「百聞は一見に如かず」ということです。本書でも絵はてんこ盛りに多用されています。プロに任せるとなかなか意図が伝わらないことがあるので、全部自分で描きました。うーーむ。つかれた。

## 本書の使い方

本書は、特別な文法用語を排除しているため、中学校卒業程度の英語力があれば誰でも始めることができます。以下のことにご注意ください。

## ①最初から順に読むことを基本とします

本書は通常の文法書とは異なり、英語を最大限に効率よく吸収する章立てを考慮しています。できる限り順序よくお読みください。以前の章の内容が

基礎となり展開している場合があるからです。

ふつうの文法書は、退屈でとても最初から読み通す気にはなりません。私だって読みません。ですが、この本なら順序よく面白く読み進めることができますよ。「そうだったのか」の発見が随所にあるはずですから。

## ②序章「英文法の歩き方」は必ずお読みください

本書の内容は、大変重要ないくつかの配置原則に基づいています。読者の方々が英語の森で悩まないように、配置原則をまずすべて説明したのが、「CHAPTER 0：英文法の歩き方」です。必ずお読みくださいね。

## ③さまざまな種類のコラム

本書の解説は、本論と——かなりの数を配した——コラムで成り立っています。コラムにはさまざまな種類がありますが、P.44 の説明を目安に取捨選択しながら読み進めてください。最初から細かなコラムをすべて読むことはありませんよ。ま、面白いとは思うんだけど。

## ④繰り返し音読

英語を話すためには、文の形と意識の運び方、リズムに習熟する必要があります。その為、しばしば例文の音読を勧めている場合があります。こうした箇所では必ず「声に出して」指示に従いながら音読を重ねてください。時間があれば、暗唱してもいいでしょう。遠回りなようでも、声に出して読む。頭だけで理解しようがない。それが、話す英語への最短距離です。

## ⑤高校生なら1週間から10日

外国語学習は理屈ではありません。頭の中に十分な語彙力と、使いこなせる文の形を刻み込むことが重要です。英語を話したいなら、文法はなるべく短期間に終わらせる必要があるということです。高校生なら10日以内に本書を読破し、英語の輪郭をつかみとるくらいの知性と勢いが必要です。大丈夫だよ、カンタンだから。

# もくじ

## CONTENTS

### CHAPTER 0 英文法の歩き方

初めての「話すための英文法」	16
① まずは4つの基本文型を知る	20
② 修飾方向を身につける	23
① 限定ルール（前から限定）	25
② 説明ルール（後ろから説明）	27
③ 穴埋め修飾	29
◎ 配置を崩してみる	32
◎ 時表現をマスターする	35

## PART 1 英語文の骨格

### CHAPTER 1 主語・動詞・基本文型

SECTION 1：主語	
① 「主語」とは？	50
② 主語のつかまえ方	51
③ 主語の「資格」は特にない	52
④ 并生主句	55
SECTION 2：動詞	
① 動詞の基礎知識（2種類の動詞）	56
② 動詞の変化形	57
③ 基本動詞のイメージ	65
SECTION 3：基本文型① 他動型	
① 他動型	66
SECTION 4：基本文型② 自動型	
① 自動型	69
② 前置詞とのコンビネーション	69
SECTION 5：基本文型③ 説明型	
① 説明型（be動詞）	71
② 説明語句の自由	73
③ 説明型（一般動詞）	74

### SECTION 6：基本文型④ 接与型

① 接与型	77
② 接与をあらわす、もう1つの形	78

### SECTION 7：目的語説明文

① 目的語説明文（基礎）	86
② 知覚をあらわす動詞と共に	88
③ make, have, letと共に	89
④ to不定詞を説明語句に	93

### SECTION 8：レポート文

① レポート文基礎：tha句	95
② whether/if句・wh句での展開	98
③ 連四し疑問文	100
④ コミュニケーション動詞のクセ	102

### SECTION 9：命令文

① 命令文の形・意味	103
② 禁止の命令・勧誘	104

### SECTION 10：There文

① there文の形・意味	108
② 2通りの「～がある・いる」	109
◆ 基本動詞	111

## CHAPTER 2 名詞

### SECTION 1：可算名詞・不可算名詞

① 可算・不可算の判断	135
② 可算名詞・不可算名詞の特徴	137
③ 不可算名詞の「考え方」	140
④ 可算・不可算は個様対応	142

### SECTION 2：単数名詞・複数名詞

① 単数形・複数形の作り方（規則変化）	151
② 単数とこれら・複数とこれら	154
③ 単数・複数の上手な選択	157

### SECTION 3：限定詞

① 限定詞なしの名詞	160
② the	162
③ a [ən]	172
④ some	178
⑤ any	181
⑥ all, every, each	183
⑦ no	187

### ④ both, either, neither

① 数量表現	189
② 指示の this, that	196
③ 単数で使える限定詞	198

### SECTION 4：代名詞

① 代名詞の基本	201
② 主格の使い方	203
③ 所有格の使い方	203
④ 日的格の使い方	207
⑤ 所有代名詞の使い方	207
⑥ -self形の使い方	208
⑦ 諸	209
⑧ 人々一般をあらわす代名詞	217
① 前に出てきた單語の代わりをする one	218
② 固有名詞	220

## PART 2 修飾

### CHAPTER 3 形容詞

### SECTION 1：前から限定

① 限定する	234
② 重ねて修飾	234

### SECTION 2：後ろから説明

① 説明を加える	237
② 説明を加えるその他の例	238

### SECTION 3：何でも形容詞

① 名詞による修飾	242
② 動詞-ing形で修飾	242
③ 過去分詞形で修飾	243
④ -ing形 vs 過去分詞形（感情をあらわす）	244

## CHAPTER 4 副詞

### SECTION 1：説明の副詞

① 例をあらわす副詞	250
② 場所をあらわす副詞	251
③ 「どのように」「どれくらい」	

### ——様態をあらわす副詞

② 時制の重ね方	254
----------	-----

### SECTION 2：限定の副詞

① 限定一般	257
② 程度副詞	259
③ 余度副詞	261
④ 優越の度合いをあらわす副詞	264
⑤ 評価・態度をあらわす副詞	266
◆ 基本副詞	269

## CHAPTER 5 比較

### SECTION 1：同等レベルをあらわす

① as-as の基本	283
② 限定期句と共に as-as を使う	285
③ as-as を使い切る	287

### SECTION 2：比較級表現：「より～」

① 比較級の基本	299
② 限定期句と共に比較級を使う	301
③ 比較級を使い切る	303

### SECTION 3：最高級表現：「最も～」

① 最上級を使った基本型	310
② 最上級を限定期句と共に使う	312
③ 最上級の応用型： 「これまで」とのコンビネーション	313

## CHAPTER 6 否定

### SECTION 1：not は前から

① 否定文の作り方	317
② 疑問句を否定する	320

### SECTION 2：「強い単語」とのコンビネーション

SECTION 3：not のクセ	
① 「思う」文で前置し	324
② not を含んだ文に対する受け答え：	
notは肯定に入れない	325
③ not を含んだ文に対する受け答え：	
not を明示する	326
④ 文の代わりに not	327

## CHAPTER 7 助動詞

### SECTION 1：助動詞基礎

- Ⓐ 疑問文と否定文 334
- Ⓑ 助動詞の変化形 335

### SECTION 2：主要助動詞の意味① MUST

- Ⓐ ～しなければならない（義務） 336
- Ⓑ ～しちゃダメ（禁止） 337
- Ⓒ ～しなくちゃいけないよ（強いおすすめ） 337
- Ⓓ ～にちがいない（強い確信） 337

### SECTION 3：主要助動詞の意味② MAY

- Ⓐ ～してよい（許可） 339
- Ⓑ ～してはいけません（禁止） 340
- Ⓒ ～しますように（祈願） 340
- Ⓓ ～かもしれない（推量） 341

### SECTION 4：主要助動詞の意味③ WILL

- Ⓐ ～だろう（予測） 343
- Ⓑ ～するものだ（法則・習慣） 344
- Ⓒ ～するよ（意志） 345

### SECTION 5：主要助動詞の意味④ CAN

- Ⓐ ～できる（能力） 346
- Ⓑ ～している（許可） 347
- Ⓒ ～しうる・ときに～することもある（潜在的な性質） 348

### SECTION 6：主要助動詞の意味⑤ SHALL

- Ⓐ 法律 350
- Ⓑ 必ず～になる（確信） 351
- Ⓒ Shall I ~?・Shall we ~?（～しめしょう） 351

### SECTION 7：主要助動詞の意味⑥ SHOULD

- Ⓐ ～すべき（義務・アドバイス） 353
- Ⓑ ～はず（確信） 354

### SECTION 8：助動詞相当のフレーズ

- Ⓐ have to 360
- Ⓑ be able to 363
- Ⓒ had better / had best + 動詞原形 365
- Ⓓ used to 366

## CHAPTER 8 前置詞

### SECTION 1：前置詞基礎

- Ⓐ 前置詞の位置と働き 369

### SECTION 2：前置詞の選択

- ◆ 基本前置詞 379

## CHAPTER 9 WH修飾

### SECTION 1：人指定の who

- Ⓐ 主語の内に組み合わせる 416
- Ⓑ 目的語の内に組み合わせる 417
- Ⓒ 「whose + 名詞」の形 418

### SECTION 2：モノ指定の which

- Ⓐ 主語の内に組み合わせる 421
- Ⓑ 目的語の内に組み合わせる 422
- Ⓒ 「whose + 名詞」の形 422

### SECTION 3：wh語を使わないケース・that を使うケースなど

- Ⓐ wh語を使わないケース 424
- Ⓑ that を使ったケース 425

### SECTION 4：where, when, why の wh修飾

- Ⓐ 「場所」の where 429
- Ⓑ 「時間」の when 430
- Ⓒ 「理由」の why 431

### SECTION 5：ハイレベル wh修飾

- Ⓐ 深く埋め込まれた穴 433
- Ⓑ カンマ付 wh修飾は注釈を加える 435
- Ⓒ カンマ付 wh修飾の誤謬 436

## PART 3 自由な要素

## CHAPTER 10 動詞 -ING形

### SECTION 1：名詞位置での動詞 -ing形

- Ⓐ 主語として 445
- Ⓑ 目的語として 445
- Ⓒ 荷臺詞の目的語として 446

### SECTION 2：修飾位置での動詞 -ing形

- Ⓐ 説明型の -ing 形（進行形） 447
- Ⓑ 名詞句の説明 448
- Ⓒ 目的語説明 448
- Ⓓ 動詞句の説明 449
- Ⓔ 文の説明 450

## CHAPTER 11 TO 不定詞

### SECTION 1：名詞位置での to 不定詞

- Ⓐ 主語として 455
- Ⓑ 目的語として 457

### SECTION 2：修飾位置での to 不定詞①

- Ⓐ come/get + to 不定詞 460
- Ⓑ 説明型の to 不定詞 461
- Ⓒ 目的語説明 463

### SECTION 3：修飾位置での to 不定詞②

- Ⓐ 動詞句の説明と「足りないを補う」 464
- Ⓑ 名詞句の説明 467
- Ⓒ 形容詞の説明 468
- Ⓓ wh語 + to 不定詞 469

### SECTION 4：to 不定詞が使われるその他の形

- Ⓐ 「it + to 不定詞」のコンビネーション 471
- Ⓑ too ~ to ..（～すぎて～できない） 472
- Ⓒ to + 完了形 473
- Ⓓ to 不定詞の否定 474

## CHAPTER 12 過去分詞形

### SECTION 1：受動文とは？

- Ⓐ 受動文という「視点」 477
- Ⓑ 受動文が好んで使われるケース 477

### SECTION 2：受動文基礎

- Ⓐ 受動文の基本型 481
- Ⓑ 受動文のあらわす「持」・疑問文・否定文 482

### SECTION 3：受動文のバリエーション

- Ⓐ 使与をあらわす受動文 486
- Ⓑ 目的語説明の受動文 487
- Ⓒ to 不定詞と受動文のコンビネーション 488
- Ⓓ 可動詞の受動文 491

### SECTION 4：過去分詞で修飾

- Ⓐ be動詞以外の使用型で用いる過去分詞 492
- Ⓑ 目的語修飾 493
- Ⓒ 過去分詞、その他の修飾 494

## CHAPTER 13 節

### SECTION 1：主語位置での節

- Ⓐ タグの節 499

### ④ 二択の whether節

500

### ⑤ who節

500

### SECTION 2：修飾語位置での節

502

### Ⓐ 説明型の節

502

### Ⓑ 説明(句)を説明（レポート文）

502

### Ⓒ 名詞句の説明

504

## PART 4 配置転換

## CHAPTER 14 疑問文

### SECTION 1：基本疑問文

513

### Ⓐ 助動詞あり

514

### Ⓑ 助動詞なし

514

### Ⓒ be動詞

515

### SECTION 2：否定疑問文

517

### Ⓐ 否定疑問文の作り方

517

### SECTION 3：付加疑問文

518

### Ⓐ 付加疑問文の基本

519

### Ⓑ ちょっとくっつけるテクニック

519

### SECTION 4：あいつち疑問文

522

### Ⓐ 発言に対する疑問文

522

### SECTION 5：wh疑問文① しくみ

523

### Ⓐ wh疑問文

523

### SECTION 6：wh疑問文② 基礎

525

### Ⓐ wh疑問文の基礎

526

### Ⓑ 時・場所・方法・理由」を尋ねる場合

526

### Ⓒ 前置詞の目的を尋ねる

527

### Ⓓ 生語を尋ねる

528

### Ⓔ 「大きな」 wh語

528

### SECTION 7：wh疑問文③ 応用

530

### Ⓐ レポート文内で尋ねる

531

### Ⓑ その他の複雑なwh疑問文

531

### Ⓒ wh語を使って範囲を巡し

532

### SECTION 8：疑問ではない疑問文

533

### Ⓐ 体動詞の疑問文

533

### Ⓑ 疑問の意味ではない疑問文

534

## CHAPTER 15 さまざまな配置転換

### SECTION 1：主語一助動詞倒置

Ⓐ (主語一助動詞) 倒置形の活用：基本	536
Ⓑ 否定的要句＋倒置	537
Ⓒ 仮定法＋倒置	539
Ⓓ Should + 倒置	540
SECTION 2：感嘆文・その他	
Ⓐ 感嘆文	541
Ⓑ その他の配置転換	542

## PART 5 時表現

## CHAPTER 16 時表現

### SECTION 1：時のない文

Ⓐ 省略文	545
Ⓑ 領域・要求・提案などをあらわす節	545

### SECTION 2：現在形

Ⓐ 現在を含む広くあり立つ状況	547
Ⓑ 現在の習慣	548
Ⓒ 思考・感情	549
Ⓓ 実験	549
Ⓔ 實演（今まさに演繹していく状況）	550
Ⓕ 現在形、その他のポイント	551

### SECTION 3：過去形

Ⓐ 丁寧表現	555
Ⓑ 控えめな過去の動詞形	556
Ⓒ 仮定法	557

### SECTION 4：進行形 (be + -ing)

Ⓐ 運動的な状況の描写	559
Ⓑ 短期間	559
Ⓒ 着向との相性	563
Ⓓ 進行形・その後の表現結果： ～してはっかりいる	564

### SECTION 5：現在完了形 (have + 過去分詞)

Ⓐ 閑近に起こったできごとをあらわす	566
Ⓑ 経験（～したことがある）	567

Ⓐ 繰続（ずっと～している）	569
Ⓑ 結果（「だから今…だ」という含み）	571

### SECTION 6：完了形バリエーション

Ⓐ 過去完了形	575
Ⓑ 助動詞＋完了形	577
Ⓒ 現在完了進行形	579

### SECTION 7：未来

Ⓐ will の様く未来	581
Ⓑ be going to (+ 動詞原形) の様く未来	582
Ⓒ 進行形が様く未来	585
Ⓓ 現在形のあらわす未来	586
Ⓔ will + 進行形 (will be -ing) を使う未来	587
Ⓕ be to の様く未来	588

### SECTION 8：仮定法

Ⓐ 仍在述べる3モード	590
Ⓑ 仮定法の心理	591
Ⓒ 仮定法の作り方①：基礎	592
Ⓓ 仮定法の作り方②：if を用いた假定法文	595

### SECTION 9：時制の一一致

Ⓐ 時制の一致：基礎	600
Ⓑ 時制の一一致と助動詞・仮定法	603
Ⓒ 時制の一一致が起こらないケース	606

## PART 6 文の流れ

## CHAPTER 17 接続詞

### SECTION 1：等位接続

Ⓐ 順行の接続	614
Ⓑ 逆行の接続	617
Ⓒ 遷移の接続	620

### SECTION 2：従位接続

Ⓐ 条件	622
Ⓑ 理由（原因）	628
Ⓒ 目的	632
Ⓓ 連歩	633
Ⓔ コントラスト	636
Ⓕ 時間への位置づけ	637
Ⓖ 多様な接続詞 as	640

## CHAPTER 18 流れを整える

### —代用・省略・注釈・レポート文テクニック

### SECTION 1：重なりを省く・注釈を加える

Ⓐ 代用	647
Ⓑ 省略	649
Ⓒ 注釈を加える（同格・挿入）	651

### SECTION 2：レポートする

Ⓐ 2とおりのレポート（連接話法と間接話法）	654
Ⓑ 再構成のテクニック	657

## 巻末付録

付録1：不規則動詞変化表	664
付録2：数の表現	666
付録3：文内で用いられる記号	670
付録4：参考文献	672
付録5：MEMO	674～681

## CHAPTER

0

# 英文法の歩き方

A GUIDED WALK THROUGH ENGLISH GRAMMAR



英語はとても単純なことはです。だけどその単純さに気がつかなければ大変な回り道をしてしまうことはでもあります。この章でます、英語がどんなことはなのか、おおざっぱにつかんでしまいましょう。ここで「歩き方」を学べば、PART 1以下の細かな文法解説もすぐに理解できるはずですよ。



## 初めての「話すための英文法」

なさんこんにちは。みなさんが手に取られたこの文法書には、書き手である私にとって非常に高いハードルが設定されています。それは、

### 話せる英語を最速で達成するための文法書

というハードルです。従来の受験参考書は、大学受験の突破が目標でした。それは「英文和訳ができればいい」程度の目標と言ってもいいでしょう。その結果、大学生になっても、ビジネスマンになってすら「英語が話せない」という事態を招来してきました。でも、英文和訳ができればいい——そんな英語力は誰も求めていないでしょう？

### 英語は話すことができて、初めて役に立つのです。

本書は大学生や社会人のみなさんはもちろん、大学受験をひかえた高校生(受験生)も対象にしています。受験に成功すると同時に、英語を書き、英語を話す、高い英語力を身につけてもらう。それが本書の目標なのです。「受験英語なんて目標にするな」「受験を乗り越えたぐらいで満足するな」ということです。

さて、英文法の目標を、英文和訳から「最速」で「話す力」へとハードルを上げたとき、ハッキリ見えることがあります。それは、

### システムを理解しなければならない

という事実です。「to 不定詞の名詞的用法」だの「動名詞」だの、いくら詳しく覚えたとしても、それはせいぜい英文和訳に役立つ程度の理解です。話す

力にはなりません。ネイティブ(英語母国語話者:ネイティブスピーカー)のもつシンプルなシステムを理解する。それだけで英語力は時間をかけずとも飛躍的に上がります。

そして——おそらくみなさん驚かれることがあると思いますが——ネイティブのシステムを理解できれば、今までみなさんを苦しめてきた難解な文法事項も、簡単に、感覚的に、あたりまえの現象として理解することができます。それが話す文法を身につけるということなのです。

話すための文法がマスターできたなら、もちろん、リスニング・読解の実力も飛躍的に上がります。話し手、書き手のネイティブと同じ見方で、英文を聞き・読むことがリスニング・読解の要諦だからです。

本書は従来の学校英文法全体を組みかえ、「最速」で「話す力」を達成するための順序を採用しています。その最も重要なスタートがこの序章「英文法の歩き方」です。

詳細はさておき、単語学習はさておき、英語のもつシンプルなシステムを英語全域にわたって解説する——それが「英文法の歩き方」です。広大な英語という世界を覗く、話すために必要な必須のシステム解説。必ず読んでください。**2時間で英語がわかるようになる。話せる気がきっとするはずですよ。**細かな話は後回し、あとまーし。

実は、英語で話すための必須文法事項は、次の4つしかありません。

- Ⓐ 基本文型 … すべての英語文を形作る4つの型
- Ⓑ 修飾方向 … 各部の修飾を行う2つの修飾方向
- Ⓒ 配置転換 … 特殊な意図:感情を込めるための、表現の配置転換
- Ⓓ 時表現 … 文内容がいつのことであるのかを示す時表現

この4つのポイントさえあさえておけば、どんな英語文でも作ることができます。あとは表現力の勝負、それが英語ということばなのです。

さあ、それではさっそくそれぞれの項目を眺めていくことにしましょう。





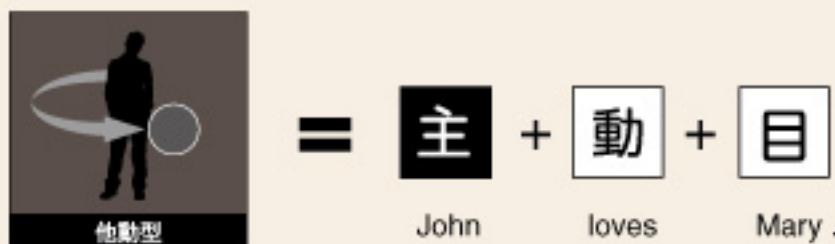
## A まずは4つの基本文型を知る —英語は配置のことば—

**英** 語をすぐに話せるようになりたい？ それならまず身につけなければならぬのは、4つの「基本文型」です。基本文型は英文の設計図。すべての英文はこの設計図に基づいて作られています。この設計図さえ手に入れれば——多少のぎこちなさはあったとしても——伝わる英語を話すことができます。



英語の基本文型

英語にこうした基本文型があるのは、英語が配置のことばだからです。他動型を例にとりましょう。この型は「主語+動詞+目的語」という配置でできています。



主語は——文の中心・主題。目的語は、動詞のあらわす動作がどこに向かっているのかを示す要素。主語・目的語には、John (ジョン), the dog (その犬) などモノをあらわす表現(名詞)が使われます。さて、この John loves Mary. とその日本語訳を比べてみましょう。

(英) John loves Mary.

(日) ジョンはメアリーを愛しています。

英語と日本語に、大きな違いがあることがわかりますか？ 日本語では「は」や「を」が、文中で名詞がどんな働きをしているのかを示しています。文中で場所を入れかえても——だから——文の意味は変わりません。

メアリーをジョンは愛しています。

愛しているんだよ、ジョンはメアリーを。

ほら、意味は通じるでしょう？

一方、「～は・～を」のない英語は、場所によって意味を判断します。

**Mary loves John.** (メアリーはジョンを愛しています)**Loves Mary John.** (意味不明)

このように、配置を変えると意味が変わってしまうのです。

場所と意味がガッチリ結び付いた配置のことば。それが英語です。だからこそ、主語や目的語など文の要素がどこに・いくつくるのかを示す基本文型が、英文の絶対の基礎となっているのです。基本文型は文の設計図なのです。

基本文型は文全体の意味を決定します。なにしろ設計図ですからね。他動型は「力を及ぼす」。動詞による動作が目的語に力を及ぼす形です。自動型は「単なる動作」、説明型は「主語の説明」、授与型は「手渡し」。基本文型とそのあらわす意味は、一対一対応。キッチリ結び付いています。次のペアを見てみましょう。

I walk my dog every day. (僕は毎日犬を散歩させるよ) 【他動型】I walk every day. (僕は毎日散歩するんだよ) 【自動型】

他動型なら walk (歩く) の力が my dog に及び「犬を歩かせる=散歩させる」となります。

自動型なら単なる動きですから、「私は歩きます」となるわけです。



- ⑧ I got a fantastic present. (すごいプレゼントをもらったよ) 【他動型】

国

- ⑨ I got there at 3 o'clock. (私は3時にそこに着いたよ) 【自動型】

国

- ⑩ I'll get you a nice T-shirt. (君にすてきなTシャツをあげる) 【授与型】

国

同じ動詞を使っていても、他動型の⑧は「プレゼントを手に入れる」。ほら、a fantastic present に「力が及んで」いますね。⑨は単なる動作。授与型の⑩は「君にTシャツをあげるよ」——「手渡し」の意味となっています(get の意味については☞P.118)。文の意味は、表現の配置を記した設計図——基本文型——が決める。だからこそ「話せる英語」へのファーストステップは、基本文型なのです。

設計図なしで、複雑なプラモデルを組み立てることはまずできません。文も同じ。基本文型を知らずに文を組み立てることはできないのです。基本文型は PART 1 で徹底的にマスターすることにしましょう。お楽しみに！

### ● 基本文型で文の意味を判断する



次の文を見てみましょう。

John xxxx her a necklace.

さあ、意味はわかりましたか？ ははは。「xxxx なんて単語ないからわからない」？ ネイティブには見当がつくんですよ。それはこの文に her と a necklace という2つの目的語があるから。「授与型だな」とわかるから、「ははあ、ジョンは彼女にネックレスを『貰ってあげた』『見つけてあげた』とかだろうな」と類推できるのです。ネイティブは基本文型から文の意味を判断する。基本文型の重要性、もう納得できましたね。

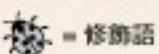


## B 修飾方向を身につける

### —修飾の2方向—

## 基

本文型がマスターできたなら、次のステップは「修飾」。「少年」という代わりに「かわいい少年」。「歩く」の代わりに「ゆっくりと歩く」。「学校に行きました」を「昨日学校に行きました」と詳しく説明する。基本文型の各要素にとりつき詳しく述べる、それが「修飾」です。



英語の修飾概念図

おおざっぱな内容だけなら、基本文型の知識があれば話すことができます。ですが、詳しく・繊細に文を紡ぎたいのなら、修飾のテクニックは欠かせません。基本はたったの2分。さっそくやってみよっか。

修飾のテクニックは、「前」に置くかそれとも「後」に置くか、配置のテクニックです。英語は配置のことば。文の要素の配置によって文全体の意味が作られるのでしたね（基本文型）。修飾も同じです。修飾要素をどこに置くか——配置がとても重要なのです。

次の例を見てみましょう。名詞（修飾のターゲット）を修飾する形容詞 red (赤い) に注目してみてください。

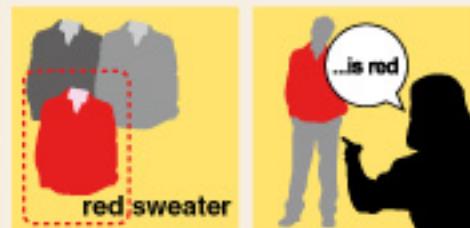
- ⓐ That is a **red sweater**. (あれは赤いセーターです)

- ⓑ **That sweater** is red. (あのセーターは赤い)

ⓐでは修飾のターゲット（修飾される語句）を前から、ⓑでは後ろから修

飾しています。前と後ろで red の働きが違うことに気がつきましたか？

前に置く修飾語は限定の働き。**ⓐ**は「青でも白でもない赤いセーター」。ある種類のセーターに意味を限定しています。一方、後ろに置いた修飾語は説明の働き。**ⓑ**は「あのセーターは赤いよね」と、単に that sweater を説明しています。



ⓒ To everyone's surprise, a **12-year-old** boy won the tournament.

(誰もが驚いたことに、12歳の少年がトーナメントで優勝した)

ⓓ My son is **12 years old**.

(僕の息子は12歳です)

ⓒの **12-year-old** は限定。ただの「少年」ではありません。「**12歳の少年**」。一方、ⓓは my son を「12歳ですよ」と説明。「前から限定(限定ルール)」・「後ろから説明(説明ルール)」——はい、2分。これで基礎は終わりです。配慮のことば、英語の修飾テクニックはとってもカンタンなんですよ。

実は、この2つのルールは形容詞が名詞を修飾する場合に限らず、どんな修飾にも成り立つ無敵の汎用規則です。the, aなどの限定詞が名詞を修飾するときにも、副詞が文を修飾するときにも——修飾であるならありとあらゆるケースにあてはまる規則なのです。この2分間は、みなさんの話す能力を飛躍的に増大させる、記念すべき2分間だったのですよ。

限定ルール・説明ルールは PART 2 で徹底的に解説します。でもその前に使用例をいくつか眺めていきましょう。そのポイントをしっかりつかんでくださいね。

## ① 限定ルール(前から限定)

限定ルールは、前からの修飾はターゲットを限定するように働くというルール。このルールは、形容詞—名詞以外の修飾関係にも、常に成り立ちます。英語にはさまざまな修飾がありますが、限定の働きをもった修飾語は常にターゲットの前に置かれるのです。



ⓐ Nancy is **very tall**.

【程度をあらわす副詞】☞P.259

(ナンシーはとても背が高い)



**very, so, really**など「程度」をあらわす副詞は、前に置かれる典型的な語句です。なぜだかわかりますか？それはこれらの語句が限定の働きをもつからです。**very tall** は、単に背が高いわけではなく「とても背が高い」。そうした種類の背の高さに限定するからこそ、**very** は **tall** の前に置かれるのです。

ⓑ I found **the dog**. 【限定語】☞P.160

(僕がその犬を見つけたよ)

a(n), the, some など、限定詞も名詞の前に置きます。限定詞は、その名詞が文脈上どういった意味をもつのかを限定する語句。**the dog** (その犬)において the は、「(文脈上) ただ1つに決まる犬」と、dog を限定しています。限定する修飾はいつも前置きなのです。



⑤ She **may** be ill. 【助動詞 ≈ P.330】  
 (彼女は病気かもしれない)

助動詞は常に動詞の前に置かれます。やはり動詞(句)の内容を限定するから。She is ill. と言えば「病気です」。ですが may be ill は「病気かもしれない」。may は「かもしれない」という種類の話なのですよ、と be ill を限定しているのです。must be ill なら「病気にちがいない」。助動詞を前に加えることによって、be ill をさまざまに限定できるのですよ。



⑥ The United States is an English-speaking country. 【形容詞 ≈ P.232】  
 (アメリカ合衆国は英語を話す国です)

最後に動詞-ing形を考えてみましょう。動詞-ing形は「～している」。I'm studying. (僕は勉強しています) など、「進行形」で有名な形です。だけど、前に置かれるときには、やはり限定。English-speaking country は「英語を話す国」。そうした種類の国だと限定しているのです。



限定ルールの意識

限定ルールの意識は、種類を限定する意識。単に tall ではなく、very tall だよ。単なる dog ではなく the dog なのですよ——ターゲットの種類を明確に絞り込む意識で使われるルールなのです。



## ② 説明ルール (後ろから説明)

「説明は後ろから」。それが説明ルール。英語では、ターゲットに説明を加えるとき、常に後ろに追記する形で修飾を行います。限定ルールが絞り込む意識であるのに対して、説明ルールは説明を加えていく意識。

⑦ John is a student. 【説明型 ≈ P.71】  
 (ジョンは学生です)

説明ルールの典型例は、基本文型の説明型。be動詞文です。be動詞文は主語に説明を加える意識で作られる形な



のです。John に a student (学生の中の1人) で説明を加えて、John is a student. が作り出されます。同じように動詞-ing形(～している)や過去分詞形(～された)で説明を加えれば、「進行形」「受動形」を作ることができます。

- ⑧ John is **yelling**. (ジョンは大声を出している) 【進行形 ≈ P.447】
- ⑨ John was **bullied**. (ジョンはいじめられた) 【受動文 ≈ P.477】
- ⑩ I met her **at the bus stop**. (彼女とバス停で会った) 【場所をあらわす副詞 ≈ P.251】
- ⑪ I met her **at 7 pm**. (彼女と7時に会った) 【時をあらわす副詞 ≈ P.250】

場所・時をあらわす語句も、説明ルール。ターゲットの後に並べていきます。「僕彼女に会ったよ」。このできごとの場所を説明したい → at the bus stop を並べる。とても簡単ですね。

説明ルールを使えば、表現の幅が爆発的に広がります。動詞-ing形(～している)を使ってみましょう。この形は進行形だけに用いられる形ではありません。

- ① **The boy yelling** is my brother. (大声を出している少年は僕の弟です)  
 ② He came into the classroom **yelling**. (彼は大声を出しながら教室に入ってきた)

The boy の後に置けば「大声を出している、ね」とその説明になり、came into the classroom の後に置けば「大声を出しながら、ね」とその動作の説明となります。説明ルールは英語を自由に話すために欠かすことのできないゴールデン・ルールなんですよ。



### ● 説明ルールの意識

説明ルールによる修飾は「欠乏感」——言い足りない、説明し足りないという意識と深くつながっています。この意識が働くとき、ターゲットの後に説明を追記していくのです。例えば、友人をパーティーに誘ってみましょう。

We are having a party. (パーティーをする予定です)  
 これではあきらかに不十分。お友達はどこに行けばいいのか、わかりません。



- (1) We are having a party **at The Savoy**. 【場所をあらわす副詞☞P.251】  
 (パーティーをする予定です。サボイホテルでね)

説明を加える意識から、ターゲットに at The Savoy が加えられていますよね。でも、まだまだこれではお友達はパーティーには行けません。「何時からなんだろう」。時間を追記しましょう。

- (2) We are having a party **at The Savoy from 18:00**. 【時をあらわす副詞☞P.250】  
 (パーティーをする予定です。サボイホテルでね。18:00から)

それでもまだダメ。いつの 18:00 だからわからないと出席はできません。そこで。

- (3) We are having a party **at The Savoy from 18:00 **the day after tomorrow****.  
 (パーティーをする予定です。サボイホテルでね。18:00から。明後日のたよ)

これで完璧！



説明ルールの意識

説明ルールの意識は、言い足りない・不十分な表現に説明を加えていく意識です。気軽にターゲットの後に説明を追記する——それができればみなさんのお修飾はネイティブレベルに大きく近づきますよ。

### ③ 穴埋め修飾

英語の修飾は、大きく分けて2つだけ——「前から限定」・「後ろから説明」。ここにもう1つ、「後ろから説明」の一種、「穴埋め修飾」のテクニックを加えます。



- ③ This is the boy **Nancy loves**.  
 (この子が、ナンシーが愛している男の子です)

ターゲットの the boy と後続文 Nancy loves のあいだには、修飾関係がありますね。もちろん the boy 在「ナンシーが愛している、ね」と後ろから説明しているわけですが、これが穴埋め修飾。後ろの文 Nancy loves に穴 (□) があいていることに気がつきましたか？

- ④ This is the boy **Nancy loves □**.

love は「～を愛する」。I love you のように、愛の向かう対象（目的語）が必要です。だけどこの文には、それが欠けていますよね——これが穴。穴とそれを埋める the boy が組み合わされ、「ナンシーが愛している男の子」——穴埋め修飾というわけです。

今度は主語の位置に穴をあけてみましょう。

- ⑤ This is the boy **who □ loves Nancy**.  
 (この子が、ナンシーを愛している少年です)

the boy の役割が変わりましたね。「□はナンシーを愛している」の□を the boy が埋める関係になって、「ナンシーを愛している少年」という意味になっています。こうした修飾を私は「wh修飾」とよんでいます。who, which など、wh語を使う（ことがある）修飾だから。とはいって、wh語は脇役。大切なのは、穴埋め関係なんですよ【wh修飾☞P.414】。

穴埋め修飾は、wh修飾に限らず広く用いられる修飾方法です。to不定詞と共に使われる例もあげておきましょう。

- ⑤ Do you have **anything to drink** □? (なんでもいいから飲み物ある?)
- ⑥ I need **someone to go out with** □. (つき合ってくれる人が必要だ)

「□を飲む」「□とデートをする」の穴(□)に anything(何か), someone(誰か)が入って、「飲む何か」「つき合ってくれる誰か」。ほら、とってもボビュラーな修飾方法なんですよ。



### ● 配置のことば、英語

基本文型と2つの修飾方向を理解したみなさんは、すでに英語ということばの本質に気がついているはず。英語はどこまで行っても、配置のことばだという本質です。

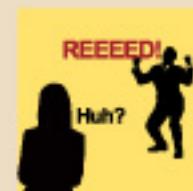
英語表現は、常に文中の配置によって役割が決まってきます。基本文型によって、主語・目的語という役割が表現に与えられるのです。ターゲットとの前後関係によって、限定あるいは説明という役割が与えられるのです。

たぬしに red(赤)という単語を考えてみましょうか。この単語、単独で、

(1) red

とホツンと置かれても、それが「赤」なのか「赤い」なのか「赤く」のかはわかりません。

- (2) Red is the color of passion. (赤は情熱の色) 【名詞】  
 (3) I love red. (僕は赤が好き) 【名詞】  
 (4) I love that red dress. (あの赤いドレス大好き) 【限定】  
 (5) That dress is red. (あのドレスは赤い) 【説明】  
 (6) The iron is burning red. (鉄が赤く燃えているよ) 【説明】



redの役割が、文中の位置によって判断されていることがわかりますか? (2), (3)が「赤」という名詞になるのは、主語・目的語の位置に置かれているからです(主語・目的語には名詞が使われるのでしたね⇒P.20)。(4)はターゲット dress の前。だから「青でも黄色でもなく、赤いドレス」と限定。(5), (6)はターゲットの後に置かれて説明。(5)は that dress を説明するから「赤い」。(6)は burning(燃えている)を説明するから「赤く」。

日本語は「赤」「赤い」「赤く」と語尾を変化させることによって文中での機能をあら

わしますが、英語はそれと同じことを配置によって行っているのです。もう1つ例をあげましょ。

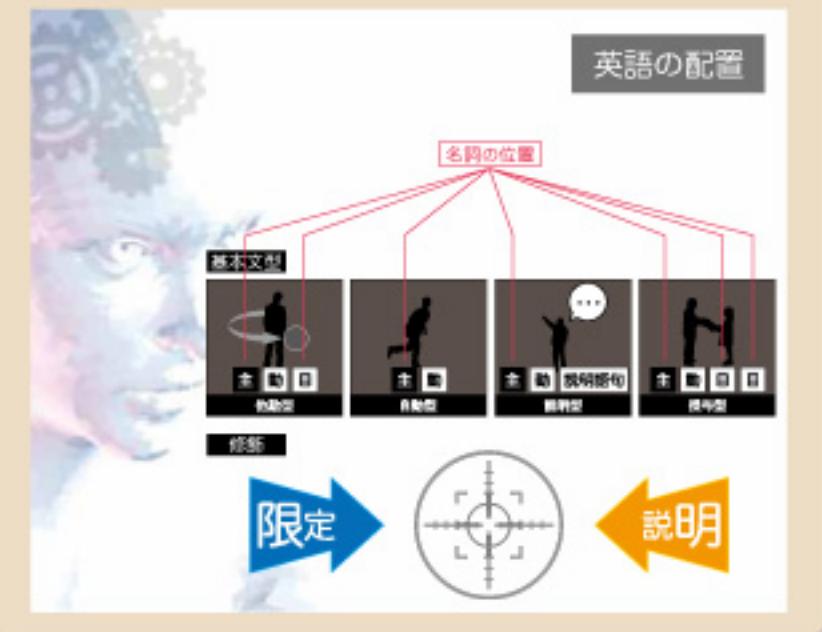
- (7) Google is an Internet search and advertising company.

(グーグルはインターネット検索と広告の会社です)

- (8) I googled him. (僕は彼をググった)

検索で有名な Google という会社名。会社名ですら動詞の場所にくれば「ググる(グーグルで検索する)」という動詞の意味になる。それが英語。

英語は配置のことば——それが英語の本質です。配置がギア(轍車)になって文を動かすことば。それが英語。ネイティブは無意識のうちに知ってるよ。英語が話せる人は誰だってわかってるよ。そして、ここまで読んでくれたみなさんにも十分伝わっているはず。みなさんはすでに英語をつかんでいるんですよ。



基本文型は4つ。修飾ルールは2つだけ。英語の配置はそれで十分。さあ、それでは次のステップに進みましょう。



## C 配置を崩してみる

### —配置転換—

**英** 語の配置を身につけてくれたみなさんが登るべき次のステップは、「配置転換」です。基本文型・修飾ルールによって作られた、鉄壁の配置は、しばしば意図的に崩されることがあります。典型的な例は疑問文。



#### ⓐ Are you a student?

(あなたは学生ですか？)

この文では、通常の配置 You are a student. から be動詞が文頭に出されていますね。なぜ疑問文となると配置が変わるのでしょう——考えたことがありますか。

その理由が、最後のルール「配置転換ルール」。「配置が動かされるときには、感情・意図がある」というルールです。

実は、疑問文の語順(倒置形)は疑問文専用の形ではありません。感情が大きく動いたときに使われる形。

#### ⓑ Am I surprised!

この文は、「びいいくりしたよ！」、「I am really [so/very] surprised.」(本当に[すごく/とても]驚いたよ)よりもはるかに強い感情の動きをあらわす文なのです。こうした文は特に珍しい文ではありません。倒置形を使えば自由に作れます。

- ⓒ Was I furious! (怒ったましたよ！)
- ⓓ Did I make a fool of myself! (バカなことしちゃったも！)



さて、疑問文を使うとき、私たちは必ず「知りたい・教えて！」と感情を動かしています。だから倒置形が使われるというわけ。疑問文は、ただ規則だからその形になるわけではないのです。配置転換ルールにしたがった、あたりまえの形なのだというわけです。 **疑問文** => P.512

大きな感情の動きをあらわす感嘆文も、配置転換ルールの典型です。

#### ⓔ What a nice camera you have!

(You have a nice camera.)

(なんてすてきなカメラをもっているんだ！)

感嘆文は、( )内の通常の位置から what, how を使って表現を前置した配置転換の形。配置を変える——そこに感嘆の気持ちが宿っているのです。

さて、疑問文や感嘆文のような「派手な」配置転換以外でも、定位置から要素が動かされるときには——もちろん——感情・意図が伴います。次の yesterday に注目しましょう。

#### ⓕ Yesterday, we had a party.

(昨日、パーティーをしたんだ)

時をあらわす表現は、文末が定位置(>P.250)。その配置が崩れ、前に出されているのは「昨日のことなんだけどね、僕らは…」と yesterday にハイライトを当てようとしているから。ほら、感情・意図が伴っているでしょう？



英語のネイティブにとって、配置は英語文の設計図であり意味を理解するよりどころです。それだけに、配置の乱れには非常に敏感なのです。そして「わざと崩した」話し手の感情・意図を敏感に察知するのです。 **PART 4** でしっかり学んでくださいね。

## ● キモチを込めて英語を話す

ここまで読んで「ああ、なるほどね。疑問文を作るのは配置転換なのですね」としか思わなかったとしたら、いつまでも会話は上達しません。みなさんが気づかねばならないこと、それは「疑問文は感情を込めて口から出さないといけないのだ」ということ。「知りたい・教えて」と、常に心を動かしながら使わなくてはいけないということです。

疑問文は機械的な規則でそーゆー形になっているわけではありません。心が躍動するから配置が乱れるのです。心が起点となって形が生まれている——そこに気がついてほしいのです。

『英語がいつまでたっても自分のことばになってくれない』。英語が話せない人の悩みは共通しています。それは機械的にやっているから、形や表現に心が通っていないから。本書では「心がつかめるような」解説を常に心がけました。本書は話すための英文法。しっかりとネイティブの心をつかむように学習を進めるんだよ。いいね。



## ● 配置がわからなければ道路標識だって読みやしないよ

瞬時に理解しなくてはならない道路標識。もちろん、英語の配置規則どおりにできていますよ。じゃなきゃ事故るから。



FOG AREA は「霧が出てくる場所」—— fog は、どんなエリアなのか area の種類を限定していますね。ROAD CLOSED は「この道は閉鎖されています」と road を closed が説明。ほら、配置規則どおり。ためしに順番を変えて CLOSED ROAD。これでは誰も理解できません。「閉鎖道」、どんな道なんだっつゆーの。それ。



## D 時表現をマスターする

### 話

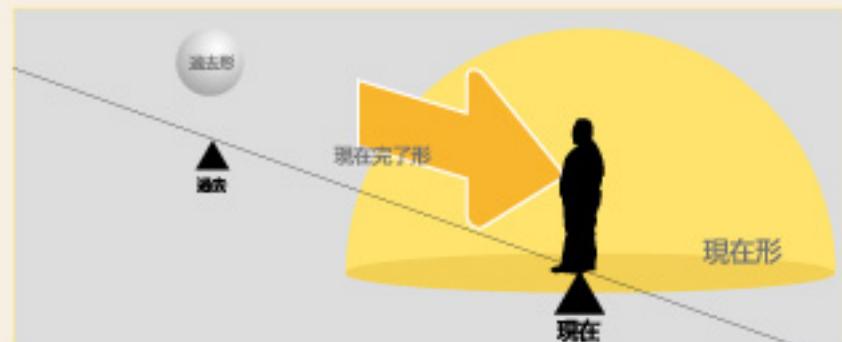
すための文法、最後のステップ。それは「時表現」のマスターです。状況やできごとを時の流れの上に位置づける文の重要な要素、それが時表現です。

英語の基本時表現は 6 つ。現在・過去と、進行・完了を組み合わせた、現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、過去完了形、さらに数種類の未来形をマスターする必要があります。

今「マスターする」と言いましたが、それは「過去形は現在時より前のできごとをあらわす」「現在形は現在のできごとをあらわす」と、機械的に理解することではありません。そんな理解では、日本語訳くらいはなんとかできたとしても会話じゃとても使えないから。「マスターする」とは、その時表現のフィールドをつかみとることです。そしてネイティブのキモチを理解することが、時表現マスターへの最速の道です。

### ■ 時は感覚で

ネイティブは時表現を感覚でとらえています。「こんな感じのときには、この形」といったように。例えば、現在形、過去形、現在完了形を支配しているのは、遠近。つまり距離感です。現在にいる話し手から見て、過去形は「遠く離れた」、現在形は「包み込む」、現在完了形は「迫ってくる」——距離の感覚としてとらえられているのです。



ほら、もうなんとなくそれぞれの形がもつニュアンスがつかめてきたでしょう？

時表現を感覚でつかまなければならない理由の1つは、同じできごとも、とらえ方によって使われる表現が異なるからです。

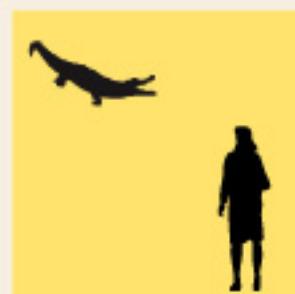
みなさんが1年前、オーストラリアに行ってワニ（の肉）を食べたとしましょうか。どちらの文を使いますか？

Ⓐ I ate alligator tails. (僕はワニの尻尾を食べたよ)

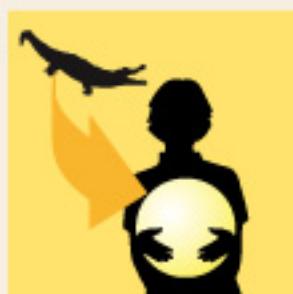
【過去形】

Ⓑ I've eaten alligator tails. (僕はワニの尻尾を食べたことがあるよ)

【現在完了形】



過去形



現在完了形

できことは1つ。ですが感じ方はひととおりではありません。「速い」過去のできごと感じれば、使うのは過去形。ですが、「今自分のもっている経験」ととらえれば、現在完了形となるのです。話し手のもつ感覚によって、時表現は自在に変わっていく——だからこそ、時表現は「過去形は現在よりも前のできごとをあらわす」などと機械的に定義することができないのです。

Ⓒ I was reading a book in bed last night when suddenly the room starts to shake and the lights go out. I freaked out!

(ベッドで昨日の夜、本を読んでたのよ。そしたら突然部屋が揺れ始めて電気が消えたの。モーっとしたわ！)



過去のできごとを話しているにもかかわらず、途中で現在形にスイッチしています。「現在形は現在のことをあらわす」のなら、こんなことは起こるはずがありません。

だけど、ネイティブにとっては朝飯前。彼らは時表現を感覚で使っているからです。昨晩のことを話しているうちに、話し手は自分がその場にいるような臨場感に包まれる——だから当然現在形にスイッチするのです。

時表現は、約子定規に定義はできません。だけどね、感覚でとらえることができるようになれば、ネイティブの時表現が見えてきます。「速い感じだから過去形」「包まれている感じだから現在形」「迫ってくる感じだから現在完了形」——それでいいんですよ。

### ■ 時表現のさまざまな用法

時表現のマスターに欠かせないのは、それぞれの表現のもつ用法の学習です。現在形にも、過去形にも、現在完了形にも、進行形にも、独特の用法があります。用法の学習で最もやってはいけないこと。それは、「各々の用法を別々のものとして暗記する」ことです。それでは英語を話す力は伸びません。用法別に考えながら会話をすることなど不可能ですし、そもそも用法から逸脱した使い方も日常茶飯事だからです。用法はすべて、それぞれの時表現がもつ基本的な感覚につなげて身につけることが大切なのです。

例えば、現在完了形には「直近のできごと・経験・継続・結果」の4つの用法が知られています。これらは——もちろん——偶然現在完了形に同居したわけではありません。どれも、現在完了形の「迫ってくる」から生まれた使い方です。



現在完了形：用法の広がり

- Ⓐ It **has stopped** raining. 【直近のできごと】  
 ((空を見上げて) 雨やんだよ)
- Ⓑ I **have visited** London. 【経験】  
 (ロンドンを訪れたことがある)
- Ⓒ We **have been** friends for a long time. 【継続】  
 (僕たち長い間ずっと友達なんだよ)
- Ⓓ Can I talk to Cathy? —— She **has gone** shopping. 【結果】  
 (キャシーいます？ —— 買い物に行っちゃったよ (=今いないよ))

現在完了形の、手元にグッと迫ってくる感触から、すぐ目の前で起こったできごと(Ⓐ)。経験とは過去のできごとを、今の経験として手元に引きつけて考えることですよね(Ⓑ)。過去のできごとが現在にいたるまでずっと続くことをあらわすⒸは、過去から今に状況が迫ってくるということですね。過去のできごとを述べ今の様子を暗示するⒹも、やはり過去を今に引きつける使い方。現在完了形のさまざまな用法は、「迫ってくる」という感覚からすべて生み出されているのです。

ところで、現在完了形の例はすべてこの4用法に分類できるわけではありません。例えば、公園をデートしているみなさんがベンチに座ろうとしたら、作業員のおじさんが大声を出しました。

- Ⓔ Be careful! I've just painted it.  
 (気をつけて！ ベンキ塗ったばかりだから)

さて、この文は先のどの用法なのでしょう？ …どの用法でもありません。おじさんは「塗ったばかりだよ。だからまだベンキべとべとなんだ」と言っているのです。つまり「直近」と「結果」が同時に感じられているというわけ。もちろん「迫ってくる」感覚があれば、用法に分類しなくてもおじさんのキモチはわかりますよね。

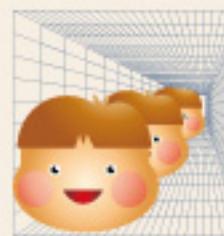
用法分類は単なる入り口。学習のための方便にすぎません。より深い実践レベルの時表現を身につけるには、用法別ではなくその後ろに流れるネイティブの感覚をマスターしなければならないのです。

## 【直近のできごと】

## 【経験】

## 【継続】

## 【結果】



時表現は、英語学習の中でも最も時間を要する、ハードルの高い学習項目です。だけれどね。つまらない定義や用法の丸暗記でなく、ネイティブの感覚をつかまえれば、それほど時間はかかりません。PART 5でじっくり説明しましょう。

## おまけ



英文法。それほど難しくはないことがわかつてきましたね？

ただ、文法を理解するだけでは、英語はできません。そ。英語表現。単語や熟語も大切。本書では、基本単語の解説を加えてあります。問題は、その説明の仕方だったりするのですよ。

本書の目標は「話せる英語」を解説すること。そのためには単語の説明も、会話で使えるレベルの説明でなくてはなりません。そのための手法が「イメージ」を使った解説です。

「イメージ」とは、「意味」ということです。英語学習者は——辞書など——日本語訳で英語表現の意味を理解することが多いのですが、それではどうしても越えられない壁があるのです。

例えば **on** という前置詞を考えてみましょう。この前置詞には、大変さまざまな日本語訳が対応します。

- ⑤ There is an apple **on** the table.  
(テーブルの上にリンゴがある)
- ⑥ There is a mosquito **on** the ceiling.  
(蚊が天井にいるよ)
- ⑦ Matsudo is **on** the Joban line.  
(松戸(市)は常磐線沿いにある)
- ⑧ Spiders live **on** flies.  
(蜘蛛はハエを食べて生きている)
- ⑨ He has a lot of things **on** his mind.  
(彼には悩みがたくさんある)
- ⑩ On hearing the news, he ran to tell all his family.  
(ニュースを聞くとすぐに、彼は家族に知らせに走った)

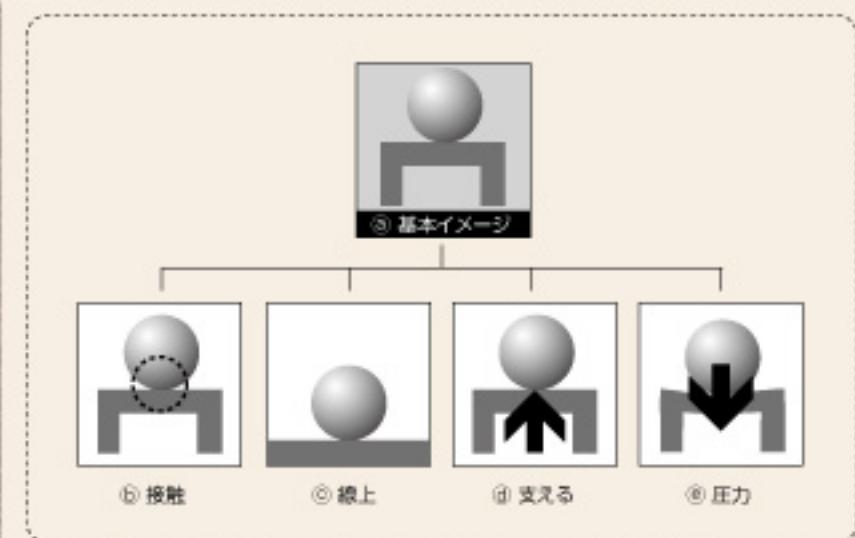
中には **on** にあたる訳語すらないものもあり、「日本語訳を覚えて **on** は使えるようにならない」ことがすぐにわかるでしょう？ 意味を別のやり方で説明しなければならない——そこで私が提案してきたのが「イメージ」です。

ネイティブにとって、**on** の意味とは実に単純。テーブル状のモノに何かが乗っている、それが彼らにとって **on** の意味(イメージ)なのです。さて、ここからが本番。実はネイティブはこの基本となるイメージから、連想によって **on** の使い方を広げます。

ジッと基本イメージを見てみましょうか。

ほら、テーブルと球体の接觸に注目すると「接觸」の使い方が生まれます。テーブルの天井に注目すると「線の上」が生まれます。下のテーブルが球体を「支え」ているように見えますし、球体が「圧力」を加えているように見えるでしょう？

基本イメージがいろんなふうに見えてくる——これが **on** がもつ膨大な用法の秘密です。



先程の例文、⑤は基本イメージ。⑥は蚊が天井に「接觸」しているということ。⑦は常磐線(線路)が線とみなされています。⑧は蜘蛛の生活がハ工によって支えられているということ。同じような使い方に count on, rely on, depend on(頼る)などもあります。⑨は「圧力」。彼の精神(mind)をたくさんモノがグリグリ押しているということ。concentrate on(～に集中する)もそう。集中力がグッと何かに向かっている感触がするから。look down on(軽蔑する)もそう。軽蔑するときには、気持ちや目線が相手をグッと圧迫するように動くから。最後の⑩は「～するとすぐ」と訳される on。「接觸」の使い方ですよ。ニュースを聞くというできごと、「知らせに走った」というできごとが「接觸」。「すぐに」ということになりますね。

いかがでしょう。単純なイメージがその用法すべてに生きているのです。ネイティブのもつ単純なイメージをつかめば、膨大な意味をもつ基本単語を私たちはすぐにマスターすることができるってことですよ。

本書の表現解説は、すべてイメージによって説明しています。文法事項も大切ですが、表現解説も楽しみにしてくださいね。すぐに使えるようになるヒントがたくさんありますから。

END



「英文法の歩き方」いかがでしたか？ もうみなさん、何をどう学べばいいのか——英語学習のための「地図」を手に入れました。その地図を使って思う存分英語の秘境を探検してください。読み進めるたびに、より深く英語が理解できるはずです。

で。忘れていると困るから、もう一度言っておきます。いいかい。話せない英語なんて何の役にも立たないんだということ。相手の言い分にうなずき、ひざまずくだけの英語など無意味なんだということ。話すことができる英語力をもっていれば、リスニングだの英文解説だのはついてくるんだということ。

本書でぜひ、大学受験レベルに留まらない、話すことのできる英語をマスターしてください。みなさんのご成功をお祈りしています。

## さあ、出発だつ。



### ●本書のコラムについて

本書には、学習のレベル・趣向に応じてさまざまなコラムがあります。次のマークを手がかりにして、読んで（または読みないで）ください。



#### ▶ HEART

【重要度】★★★

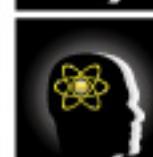
ネイティブの心の動きを詳解するコラム。すべての方にお読みいただきたいコラムです。



#### ▶ LIGHT

【重要度】★★★

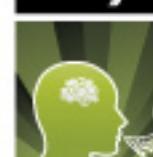
さらに詳しく使い方などを解説するコラム。やや学習が進んだ方に適したコラムです。



#### ▶ ELECTRON

【重要度】★★★

文法現象にマニアな分析を加えたコラム。一般の方は読む必要がありません。理屈で文法を割り切りたい特殊な方々に向けて書きました。英語の実践にはほぼ役に立ちません。はは。



#### ▶ CONVERSATION

【重要度】★★★

会話へのヒントを書いたコラム。みなさんお読みください。



#### ▶ POSITIONS

【重要度】★★★

英語は配置のことば。文の要素の配列の仕方を詳しくまとめたのが、このコラム。しっかりとお読みくださいね。



#### ▶ VOCABULARY

【重要度】★★★

語彙を増強するためのコラム。大学入試で標準的に試される表現をカバーしています。日常会話の範囲から逸脱するものもありますが、よろしければどうぞ。無駄にはなりません。



#### ▶ TYPICAL MISTAKES

【重要度】★★★

よくある間違いを示したコラム。特に大学受験生は要注意です。

# 基本文型① 他動型

▶他動型は、英語で特に好まれる型です。まずはここから征服しましょう。



## A 他動型

### ⓐ My boyfriend kissed my sister!

(私のボーイフレンドが妹にキスを！)

### ⓑ Some students teased the new teacher.

(新任教員をからかう学生がいた)

### ⓒ Ellie has beautiful eyes.

(エリーは美しい目をしている)

### ⓓ I know Monet.

(私はモネをよく知っている) \* Monet : 印象派を代表するフランスの画家。

# My boyfriend kissed my sister!

動 目

動詞の後に目的語（名詞）を1つ従えた型。それが他動型です。基本文型は常に独自の意味（感触）と結び付いていることに注意してください。感触がつかめなければ決して上手に型を使いこなせません。

動詞の「力」が対象物（目的語）に加わる・及ぶ——それがこの型の意味。ⓐは「からかう」が the new teacher に、ⓑは「所有」が beautiful eyes に、ⓓは「知識（知っている）」が Monet に及んでいる感触です。この型はいつでも、この感触をもっているのです。



### ● 目的語は名詞の位置・目的語のキモチ

他動型では、動詞の後に力が向かう対象として「目的語」が加わります。目的語とは動詞・前置詞が後に従える要素。主語と並んで、典型的な名詞（代名詞）の位置です。

(1) John protected his kid sister. (ジョンは妹を守った)

動 目

(2) John lives in Urawa. (ジョンは浦和に住んでいる)

動 目

主語と同様に、目的語には単純な名詞（代名詞）以外も使うことができます。代表的なものは -ing形と to 不定詞。

(3) I like playing golf with my son.

(4) I like to play golf with my son. (僕は息子とゴルフをするのが好きだ)

どちらの文も「ゴルフをすること」と名詞として -ing形・to 不定詞が扱われていますね。(3)・(4)のニュアンスの違いは => P.455 を参照。

目的語にはいつも「指示示す」感触が伴っています。(1)は protect の「力」が「ここに及んでいるんだよ」と指す。(2)は「どこの中(in)か」というと、浦和だよ」と指す。動詞・前置詞の後に共通の感触が宿っているのです。

代名詞 (I, you, she など) は、目的語の場所ではそれ専門の形である目的格 (me, you, her など) を使用します (=> P.207)。

(5) He loves me. (彼、私のこと好きなの)



目的格は「指示示す」形だから。ネイティブが Me? (私?) と言うときの動作を観察してください。ほら、自分を指さしているでしょう？



### ● 他動型のもつ、強い「及ぶ」感触

「動詞+目的語」には常に、「力が対象に及ぶ」強い感触があります。先程とりあげた例文をもう一度見てみましょう。

(1) I know Monet. (2) I know about Monet.

(3) I know of Monet.

日本語訳はすべて「私はモネを知っている」ですが、受ける感触は大きく違います。この中で最も深い知識をもっているのは(1)の know Monet. know about Monet も「フランスの印象派だな」「光の画家だな」などいろいろ知っている感触はあります。know Monet と比べると知識の深度は落ちます。(3)の know of Monet にいたっては、「あーきーしたことあるなー。建築やってたんだっけ？」程度のこと。比較になりません。知識が直接 Monet をむかう感触、それが know Monet なのです。他動型のもつ

強い意識。しっかりと身につけてくださいね。



### ●「スポーツをする」のいろいろ

「野球をする」「柔道をする」「スキーをする」。同じ、スポーツをするという表現ですが、表現の仕方は異なります。

- (1) I play baseball [tennis/rugby/soccer]. [play + スポーツ名]  
(私は野球[テニス/ラグビー/サッカー]をする)
- (2) I do/practice judo [yoga/karate]. [do/practice + スポーツ名]  
(私は柔道[ヨガ/空手]をする)
- (3) I ski [skate/fence]. [動詞であらわす]  
(私はスキー[スケート/フェンシング]をする)



さて、なぜ野球などのスポーツに限って他動型を使うのでしょうか？それは「力が及ぶ」を感じるから。野球・テニス・ラグビー・サッカー、すべてボールを打ったり蹴ったりします。インパクトの連想からそれに見合った他動型が用いられるというわけ。スキーには、何かを打ったり叩いたりのイメージはありませんよね。だから他動型を使わず、単に *ski* と動詞になります。また、(2)のようにインパクトもない、動詞になるほどでもないスポーツは「do/practice + スポーツ名」となります。

他動型の「力が及ぶ」。実に一般的な語感なのですよ。



### ●英語を話せるようになるためには

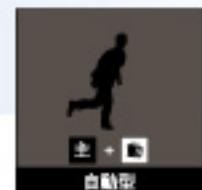
英語学習の成否は、この、数十ページで終わってしまう「文型」にかかっています。型を身につける最もいい方法は「音読」。「力が及ぶ」を意識しながら声に出して読むこと。*the new teacher* にインパクトを感じながら「teased the new teacher」。*Monet* に知識が及ぶことを意識しながら「know Monet」。すべての型が体から自然に出てくるまでしつこく読めば、英語はすぐに話せるようになります。



# SECTION 4

## 基本文型② 自動型

▶次は「自動型」。これが一番簡単。



### A 自動型

- ⓐ My brother **swims** really fast.

(兄は泳ぐのがすごく速い)

- ⓑ My baseball team didn't **play** well last night.

(僕のひいきしている野球チーム、昨夜はあまりできがよくなかった)

## My brother **swims** really fast.



動詞の後に目的語がないこの型には、力が及ぶ対象がありません。つまり、「単なる動作」を示します。

例文の *really fast, well last night* は、目的語ではなく修飾語句。いくら重なっても文型には関わりません。ご注意ください。

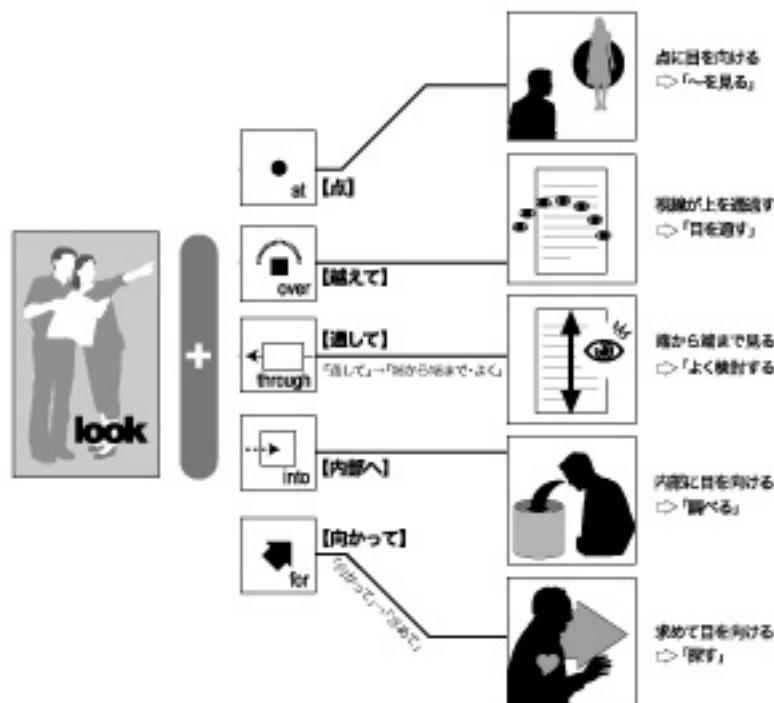
### B 前置詞とのコンビネーション

- ⓐ I **looked at** the girl. (その女の子に目を向けた)

- ⓑ Are you **going to** the school festival? (学園祭行くの？)

自動型ではしばしば、動詞による動作が「何に対して・どのようになされるのか」を示す前置詞がコンビネーションで使われます。ⓐの *look* は「目を向ける」という単なる動作です。それが何に対して行われたかを *at* が示します。

しているのです。こうしたコンビネーションはしばしば「熟語」として紹介されますが、まとめて暗記する必要はありません。動詞と前置詞、それぞれのイメージ（単語のもつ中核的な意味）を正しくつかんでいれば、ほとんどの場合正確に予想することができます。



\*動詞と前置詞のコンビネーションに関して、詳しくは「勾動詞」(☞P.372) を参照。

### 他動型と自動型

次の文を見てみましょう。(1)は他動型、(2)は前置詞が使われた自動型です。

(1) He **shot** the bird. (2) He **shot at** the bird.

(1)は目的語に力が及ぶ他動型。彼は鳥を撃った——鳥に命中するところまでを意味に含んでいます。一方、(2)は単なる行為。目標を示す **at** が加わり「鳥をめがけて撃った」。命中までを意味に含んではいないのです。他動型と自動型のもつ意識の違いがクリクリと浮かび上がりますね。



## SECTION 5

# 基本文型③ 説明型

▶「説明型」の典型例はbe動詞文。単純な型ですが意図の運び方に注意しましょう。それが「話せる英語」につながります。



### A 説明型 (be動詞)

Ⓐ My cousin is a **delinquent kid**.

(僕のいとこは非行少年です)

Ⓑ My cousin is **very moody**.

(僕のいとこはとてもお天気屋さん)

Ⓒ My cousin is **at the bowling alley**.

(僕のいとこはボーリング場にいるよ)

## My cousin is a **delinquent kid**.



説明型は「主語を説明する」型です。最も頻度が高いのはbe動詞文。be動詞の後ろに説明語句を置き、My cousin = a delinquent kid と説明します(Ⓐ)。

この型は説明ルール（説明は後ろから）の典型的な形。主語の後ろに説明語句を配置する意識で作ります。be動詞に意味はありません。主語と説明語句をつなげる、文の形を整えるための単なる「つなぎ」として働いています。さあ、何度か上の文を音読してみましょう。Is は「オートで自然についてくる」感じ。意識を置かないことに注意しましょう。



### ● be動詞：意味のない「つなぎ」

be動詞に意味はない、単なる「つなぎ」。それがネイティブの意識です。そのため、be動詞にはほかの動詞にない重要ないくつかの特徴があります。

#### ◆ be動詞には短縮形がある

be動詞は短縮形がある唯一の動詞です。短縮形は「時々短縮して使う」わけではありません。会話では短縮形の方が圧倒的に頻度が高いです。意味がないから平気で短縮されるというわけ。ちなみに be動詞も過去形となると、短縮はされません。

I was happy. → ✗ I's happy.

「過去のことを示す」意味が生まれるから。意識のありようが短縮されるかどうかを決めているのです。

#### ◆ be動詞は強く発音されない

be動詞は弱く・すばやく発音されるのがふつうです。文全体の意味を強める、特殊効果をねらった文(☞P.536)以外で、be動詞をほかの単語と同じように強く発音すると不自然に響きます。

#### ◆ 省略されることがある

感情が激昂したとき、手短に切れよく発言したいときなど、be動詞は省略されることがあります。

■ be動詞の短縮	
I am → I'm    That is → That's He is → He's    We are → We're	
■ be動詞の発音	小さく発音
○ John  happy.	
✗ John is happy.	

■ be動詞の省略
Is everything OK? You are a liar!
この通り!

意識を直かない単なる「つなぎ」——それがネイティブの be動詞なのです。



### ● be動詞の「いる・ある・なる」

be動詞には、「いる・ある・なる」と訳すとピッタリくる場合が多くあります。だからと言って、「be動詞には、存在や変化をあらわす使い方がある」と考える必要はありません。

(1) John **is** in his bedroom. (ジョンはベッドルームの中にいます)

(2) She **will be** a good teacher. (彼女はいい先生になるでしょう)

(1)は単に「ジョン=ベッドルームの中」ということ。説明語句が場所をあらわしているので「いる」と訳すだけのこと。(2)は「彼女=いい先生」に将来なるだろう、ということ。やはり **become** (~になる) のような強い意味合いはもっていないのです。be動詞は単なる「つなぎ」。それだけでいいのですよ。

#### \*昔の使い方

God **is**. (神は存在する) のように、以前、be動詞には「存在」を積極的にあらわす使い方があったのは事実です。ですがこうした使い方は決まり文句に限られ、21世紀現代英語では自由に作り出すことはできません。✗ John **was**. (ジョンがいた)

## B 説明語句の自由

be動詞の後に置く説明語句には、意味さえ通ればあらゆる要素を自由に使うことができます。気楽に並べてくれればいいんですよ。

- |                     |  |         |
|---------------------|--|---------|
| Gary was<br>(ギャリーは) | ⓐ angry at me. (僕に怒っていた)   | 【形容詞句】  |
|                     | ⓑ a chef. (シェフだった)   | 【名詞句】   |
|                     | ⓒ on duty. (勤務中だった)  | 【前置詞句】  |
|                     | ⓓ fishing. (魚釣りをしていた)  | 【-ing形】 |
|                     | ⓔ injured playing soccer.<br>(サッカーをやっていてケガした)                        | 【過去分詞形】 |
|                     | ⓕ to regret his foolish behavior. 【to 不定詞】<br>(おろかな行為を後悔することになるのだった) |         |

ⓐとⓔはそれぞれ進行形(☞P.447)・受動形(☞P.477)とよばれます。-ing形と過去分詞形を説明語句として使った単なる説明型の文です。説明語句には、節(文)も使うことができます。

## ⑧ The trouble is that we don't have enough money.

(問題は僕らが十分お金を持っていないってことだよ)

## ⑨ The problem is what we should do if the plan fails.

(問題はもし計画が失敗したらどうするべきかだ)

## ⑩ The question is whether we cancel our trip or not.

(問題は旅行をキャンセルするかどうかだ)

説明語句には何も制限はありません。なんでも可能——この自由をぜひ手に入れてください。



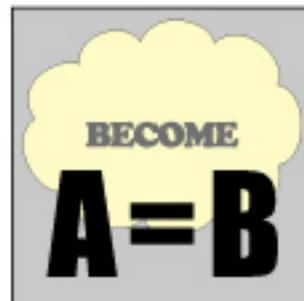
## ● 自由度の理由

英語は、表現の文中での働きが配置によって決まる。配置のことばです。**be**動詞の後ろの位置は「説明」の位置。どういった要素がこの位置にこれるのかという繋りは、「説明として理解することができるか」だけ。その結果、ほぼすべての要素を使うことができるというわけなのです。

## C 説明型（一般動詞）

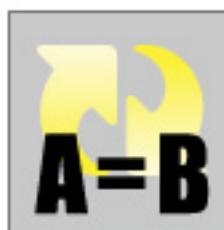
## ① Many workers have become jobless.

(たくさん労働者が無職になった)



説明型は **be**動詞以外の動詞にも使うことができます。この文では動詞の後ろに説明語句 **jobless** (無職の)。**be**動詞文と同じように、基本的な意味は「Many workers = jobless」。ただ、**be**動詞と異なり実質的な意味をもつ動詞（一般動詞）の場合、その意味が「=」にオーバーラップします。「Many workers = jobless になった (have become)」という意味になるわけです。説明型をとることができる動詞は **become** 以外にも数多くあります。

## 〈変化をあらわす動詞〉



## ① All the food went rotten.

(食べ物はみんな腐っちゃった)

## ② I'm getting hungry, Mom. When's dinner?

(お腹空いてきたよ、かあさん。晩ご飯いつ？)

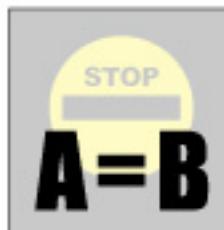
## ③ The autumn leaves are turning red and gold.

(秋になり木の葉が赤や金になってきた)

※どれも「ーになる」と、変化をあらわす動詞です。

④ 「食べ物は腐った(になる)」とオーバーラップしています。**go, come** は「ある状態に行く(くる)」から「変化」につながっています。(P.111)⑤ **get** は「動き」をあらわすことから「変化」。大変ポピュラーな使い方です。⑥ **turn** はひっくり返すようにガラッと「変化」。ほかにも **Everyone grows old**, (誰もが歳をとる) などの例もあります。

## 〈ある状態に留まることをあらわす動詞〉



## ① The audience remained silent during the national anthem.

(国歌斉唱のあいだ聴衆は静まりかえっていた)

## ② It's important to stay calm in an earthquake.

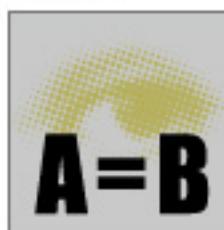
(地震の場合冷静であることが大切)

## ③ I exercise every morning to keep fit.

(健康な体を保つために毎朝運動してるよ)

※④ 「聴衆=静か(なままだ)」と、オーバーラップ。

## 〈知覚印象をあらわす動詞〉



## ① Doesn't she look gorgeous in that dress?

(彼女のドレス着るときれいじゃない?)

## ② My hair feels much softer with this new conditioner.

(この新しいヘアコンディショナーつけてると)

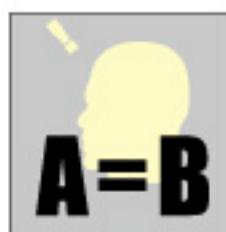
(はるかに髪がやわらかく感じるよ)

## ③ The new video game sounds amazing.

(新しいテレビゲーム、すごそうだね)

※④ 「彼女=きれい(に見える)」とオーバーラップ。**feel** (感じる), **sound** (聞こえる), **smell** (においがする)、など、知覚をあらわす動詞は頻繁にこの形で使います。

## 〈判断をあらわす動詞〉



- ⓐ She **seems/appears** stressed out.  
(彼女はストレスで参っているようだ)
- ⓑ His plan **proved** successful.  
(彼の計画は成功だった [成功ということが用意した])
- ⓒ Her prediction **turned out** right.  
(彼女の予言が正しいことがあきらかになった)

\*ⓐ：「彼女ーストレスで参っている（ように見える）」とオーバーラップ。

ⓑ：prove（証明する・わかる）も説明型に出てくるボビュラーな動詞。

ⓒ：turn out（あきらかになる）が「彼女の予言=正しい」にオーバーラップしています。

細かく分類しておきましたが、こんな分類覚えなくても、もちろん大丈夫。これらの動詞は、「A = B ( )」の( )の部分に入る動詞たち。「A = B (になる・のままだ・に見える・に思える)」などがピッタリくるのは当然ですね。

さあ、オーバーラップの意識で何度も例文を音読していきましょう。頭で理解するだけでは英語は話せません。ネイティブと同じ意識でこの形が口について出てくるまで練習、ですよ！

# SECTION 6

## 基本文型④ 授与型

▶最後の基本文型「授与型」です。「動詞 + 目 + 目」——最も長い基本文型。徹底した口慣らしが必要ですよ。



主 + 動 + 目 + 目  
授与型

### A 授与型

#### ⓐ I gave the guy my cell phone number.

(その人に携帯番号を教えてあげた)

#### ⓑ My parents bought me an iPad.

(両親は僕にiPadを買ってくれた)

#### ⓒ We wrote our teacher thank-you poems.

(先生にありがとうの詩を書いてあげた)

#### ⓓ I wonder who sent me this Valentine card.

(誰が僕にこのバレンタイン・カード送ってくれたのかな)

## I gave the guy my cell phone number.

動詞の後に目的語2つを従えた授与型は、「AにBを授与する（あげる・くれる）」をあらわす型です。目的語の順序は変えることができません。いつも「AにBを」の順番となります。

上の例文では、すべて「あげる・くれる」の意味合いになっていることに注意すること。授与型で使われるとどんな動詞でも手渡しの意味合いになります。配置のことは英語では、文型と意味はガッチリと結び付いているのです。

#### ⓔ Mika tells me all the school gossip.

(ミカは私に学校の噂を全部教えてくれるのよ)

#### ⓕ My Grandma taught me Korean.

(おばあちゃんが私に韓国語を教えてくれた)

- ⑥ My Mom used to **read me bedtime stories** when I was a kid.

(母は僕が子どもの頃、おやすみの物語を読んでくれたものだよ)

この型で手渡しされるのは具体的なモノだけではありません。「教えてくれる」「読んでくれる」など、抽象的な手渡しにも使うことができますよ。

- ⑦ **My old scooter costs me a lot of time and money.**

(僕の古いスクーター、すごく時間とお金がかかるんだよ)

- ⑧ **It took me 3 hours to get home from school today, owing to the typhoon.**

(台風で学校から帰るのに3時間もかかっちゃった)

- ⑨ **The hotel charged us \$50 for losing our room key!**

(カギなくしたらホテルが僕たちに50ドルも請求してきた！)



授与型は「あげる・くれる」だけではありません。そこに cost, take, charge (かかる、取る、請求する)などの単語を使えば、奪う意味関係もあらわすことができます。誰から何かを奪う関係——「マイナスの授与」というわけです。

## B 授与をあらわす、もう1つの形

「授与」をあらわすのは授与型の文だけではありません。前置詞を使ってもあらわすことができます。

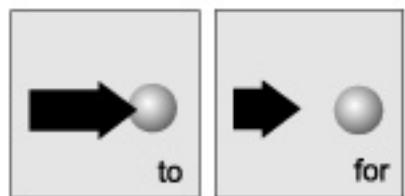
- ⑩ **She gave this love letter to me.**

[**She gave me this love letter.**]

(彼女はこのラブレター、僕にくれたんだよ)

この前置詞を使った形には、to を使う場合と for を使う場合があります。to は到達点、for は「～のために」と受益者をあらわす前置詞 (to = P.402, for

= P.389)。give (あげる), tell (告げる), send (送る) など到達点が意識される動詞では、「この人にあげた・言った・送ったんだよ」と to が使われ、make (作る), find (見つける), buy (買う) など、受益者が強く意識される動詞では、「～のために作った・見つけた・買ったんだよ」と for が使われます。



- ⑪ **I'll send the party photos to you.**

(パーティーの写真、君に送ってあげるよ)

- ⑫ **She wrote this love letter for me.**

(彼女はね、このラブレター僕のために書いてくれたんだよ)

- ⑬ **She baked some muffins for her volleyball club.**

(彼女はバレー部のみんなのために、マフィンを焼いてくれた)

それでは問題です。次のペア、意味の違いがわかりますか？

- ⑭ **She brought this chair to me.** (彼女は僕のところにイスを持ってきた)

- ⑮ **She brought this chair for me.** (彼女は僕のためにイスを持ってきた)

⑭は「僕のところに」、単なる到達点。⑮は「僕のために」、僕を思いやって、ということですよ。簡単ですね。



### ● この形は代替形

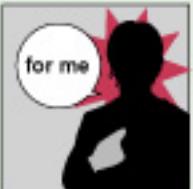
前置詞を使って「授与」をあらわすこの形、実はそれほど重要度が高くはありません。授与をあらわす場合には授与型が圧倒的にノーマルな形だから。この形が使われる典型的な状況は、受け手の強調です。

- ⑯ **Don't you dare read that! She wrote that love letter for me!**

(それ、読むのやめろよ！ そのラブレター、彼女は僕にくれたんだから！)

この文では「僕に (me)」が目立つ文末に置かれ、前置詞 for により誰のためにかが明示されていますよね？ これにより、受け手に強い光が当たる形となっているのです。

授与型とこの形は、使われる状況もニュアンスも異なります。「どちらでも同じ」と考えず、授与型ではあらわすことのできない強調を与える「代替形」だと考えてくださいね。



## CHAPTER

## 2

## 名詞

NOUNS



この章ではモノをあらわす表現——名詞を学びます。英語はモノに敏感なことは、日本語にはない、さまざまな「モノの見方」に慣れてください。

## ■名詞とは

名詞とはモノ（人・もの・コト）をあらわす表現。主語や目的語には名詞が用いられます。文の骨格を形作る重要な要素——それが名詞なのです。

名詞には pen や water など、一般的な事物をあらわす名詞のほか、Tom, Japan, the United States of America などの個別のものについての名前（固有名詞）や, I, you などの代名詞があります。

## ■モノ表現に繊細な英語

英語と日本語には大きく異なるポイントがいくつもありますが、その1つが名詞の質。英語は大変繊細に、詳しくモノを説明することばなのです。この独特的のクセが、英語における名詞の使い方を複雑なものにしています。次は英語ネイティブにとって、かなり不自然な文。

✗ I have pen. (僕はペンをもっている)

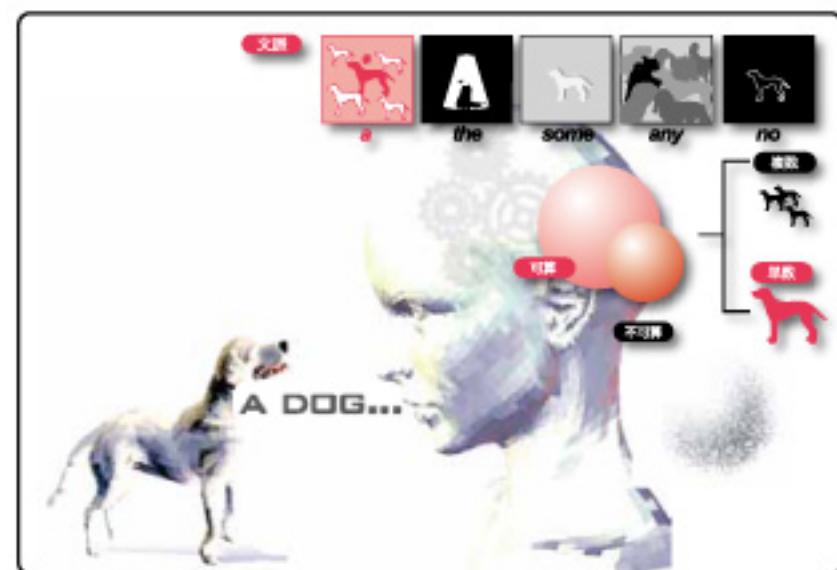
ノンネイティブの英語としてはこれでも悪くはありません。ブロークンな「伝わればいいや」の英語ならこれで十分。「ペンをもっているんだな」とことはポンヤリ伝わりますから。ですが、ネイティブの高い英語力を目指すみなさんにはその先に進んでもらいましょう。

実はこの文は、ネイティブにはどうにももの足りなく感じられる文。「もっとしっかりクリッキリ pen を説明してくれよ」と言いたくなる文なのです。日本語では「僕、ペンもっているよ」は完全に自然な文ですが、モノ表現に繊細な英語では、それでは不十分なのです。

## ■モノを見る「目」

英語ネイティブはモノを3つの観点から眺めます。

- ①それは数えられる（可算）のか数えられない（不可算）のか。
  - ②可算だとすれば単数なのか複数なのか。
  - ③どういった文脈上の意味（特定・不特定など）をもたせたいのか。
- この3つの観点から、適切な形を使う、それがネイティブの名詞なのです。



### ①可算・不可算

可算・不可算は文字どおり、数えられるか・数えられないかの区別です。より正確に言えば、具体的で決まった形があるかどうかということ。



可算の列は、すべて決まった形がありますね。ところが不可算はすべて形がなく、その結果数えられなくなっています（チーズはどんな形をしていても「チーズ」ですよね）。ネイティブは表現したいモノの可算・不可算に応じて——例えば——修飾する単語を変えます。日本語では「たくさん」です

が、英語では many (数が多い) と much (量が多い) を使い分けます。もちろん many は可算、much は不可算の場合に使います。

- Ⓐ You're lucky you have so **many** [✗ **much**] **friends**.

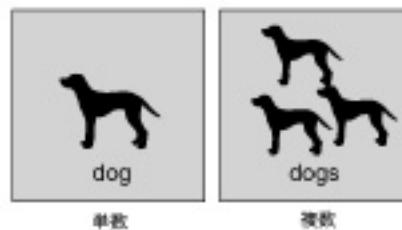
(君はたくさん友達がいてラッキーだね)

- Ⓑ We never get **much** [✗ **many**] **rain** here.

(ここでは決してたくさん雨は降らない)

## ② 単数・複数

単数・複数は、「可算」の場合に行われる判断。不可算の場合、単数・複数の区別はありません。数えられないのだから当然ですよね。



## ③ 詳細な限定を加える限定詞

ネイティブは、可算・不可算、単数・複数だけでなく、さらに詳細にモノを説明します。「この文でどういったモノを自分は意味しているのか」の詳細な指定。それが名詞の前に加えられる a や the, many, this などの「限定詞」です。

### 文法用語解説

### 限定詞

「限定詞」とは後続する名詞の文脈・場面上の意味、数量などを限定することばです。a, the などの冠詞類、one, many などの数量表現、this, that などの指示語を含みます。

- Ⓐ I love **dogs**.

(僕は犬が好きです)

- Ⓑ I love **the dog** next door.

(僕は隣の犬が好きです)

Ⓐ の **dogs** は無限定。具体的な犬は何も想起されません。犬一般。単に「犬好き」だということです。ところが限定詞 the が加えられたⒷ の **the dog** は、シロ



やボチといった特定の犬。話し手にも聞き手にもわかる具体的な「犬」を意味しています。

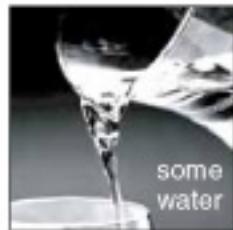
- Ⓒ Water is a vital resource.

(水は貴重な資源です)

- Ⓓ Could I have **some water** to take these pills with?

(この薬飲むのに水をちょっといただけますか?)

Ⓒ は無限定——水一般。カルビスやコーラや油じゃなくて「水」。しかしⒹのように限定詞 some を加えると「水をいくらか」——途端にある分量をもった具体的な「水」が想起されます。限定詞は、そのままでは漠然とした意味しかもたない dog や water を、具体的な「犬」「水」に限定する働きをもっているのです。



限定詞は、モノを繊細に表現する習慣をもたない日本語ネイティブの私たちにはやや厄介なしきもの。だけどね、一度慣れるとその便利さが身にしみてわかります。限定詞を手放せない——そこまで仕上げていきましょう。

there文は「初めての事物を話題にちり込む」、もう太丈夫ですね？

それでは、既出の（すでに話題にのぼっている・お互い知っている）ものについて「～がいる・ある」と述べるにはどうしたらよいのでしょうか。もちろん例文のように、ただの *be*動詞文を使っておけばいいのです。

Tom, your son, he, あるいは the boy などといった表現は、ふつう there 文に使われません。それは意識が矛盾するから。これらはすべて、すでにお互いがよく知っているものを指す表現。there文を使って初めてち込む必要がないのです。ただの be動詞文と there文。英語では2とおりの「いる・ある」が使い分けられているのですよ。

### ■ 固有名詞などが there文で使われるとき

**ULTRA ADVANCED**

因有名詞など既出の表現は *there*文にはぶつう出てきませんが、「*there*文に因有名詞は出てこない」などと勝手に規則をあみ出してはなりません。*there* の引っぱり込み感覚とマッチする状況なら因有名詞だって OK。

A: I can't think of anyone to take Anna's place, can you?

(アンオのせわのがである人。黙につかれいんだけど、黙はどう？)

B: Ah! There's Heather.

(卷之二) 八卦-山川諸神



考えあぐねている A に、B は「へーザーがいるよ！」と思ひもかけなかった人物を話題に引っぱり込んでいます。だから *there* は OK。ことはばね、生きているんですよ。



基本動詞

動詞の中には、日本語訳を見えるだけではなかなか使いこなせないものがいくつあります。その代表が「基本動詞」——会話に頻出し、頻度高い用法をもつ動詞です。ここでは、そのいくつかをとり上げイメージを使ってマスターしていただきましょう。基本イメージが日本語訳と同じ場合でも、安心しないでください。絵と解説を見て、本当のニュアンスをつかりつかれること、いいわね？

GO

行く。話。



#### 過去イメージ「立候表」・進行する

▶ goのイメージは、「ある場所から立ち去って進んでいく動き」です。多彩な用法をもちますが、すべてこのイメージからの連想です。

第1步

### ◎「南華經惠子篇」注解

- [1] He **went** to the museum. (彼は博物館に行った)  
[2] Poor Granny has **gone**.

(かわいそうにはあちゃん死んじゃった)  
[3] You are simply not up to the job. You have to go. (君にはこの仕事無理だよ。辞めて欲しい)  
▶「立ちまる」からの標準な類似で「死ぬ」「死める」などさまざまな意味が生まれます。

### ◎「酒風」

- |1| As far as dress code is concerned, anything goes.  
（ドレスコードに関する限り、なんでも大丈夫ですよ。）  
▶ 「進んでいく」から「進出す」。

◎ 國際化する

- [1] The milk **has gone** sour. (ミルクが腐っちゃった)  
▶「変化」は「ある状態に進んでいく」という通想。

▶ no.を押すかフレーズ

- |1| have [has] gone (行ってしまってもうここにはいない)  
■ Your dad has gone to the bank.  
(ひりひは銀行に出かけていてないよ)  
▶ go は「立ち去る」。そして現在完了は「今」に焦点がある形。立ち去って今。だからこのコンピューションには「もういないよ」という含

みが生まれます。(☞P.572)

### (2) go (and) 動詞 (行って～する)

■ I don't know where the keys are.  
— Well, go and find them [Go find them]. (カギがどこにあるかわからないよ。— ま、見つけてきなさいよ)

### (3) go + -ing (～しに行く)

■ Let's go swimming/skiing.  
(泳ぎに／スキーに行こうよ)

### (4) For here or to go?

▶ハンバーガーなどを買おうと尋ねられます。もちろん「店内でお食べになりますか？」それとも「お持ち帰りですか？」という意味。goの「立ち去る」がイキイキしていますね。

## COME

来る、など



### 基本イメージ 【到來する】

▶ come のイメージは、何かが向こうから「やってくる」。

### 派生イメージ

#### ① 【さまざまな「やってくる】】

- (1) Where do you come from?  
(どちらの出身ですか?)
- (2) A watch like that doesn't come cheap.  
(ああいった時計は安くないよ)
- (3) Mmm... nothing exciting comes to mind.  
(んー…何も面白そうなことが思い浮かばない)
- ▶(2)は時計がやってくる、つまり「手に入る」ということ。come するものは人だけではないんですよ。

### ② 【もうすぐくる・次の (coming)】

- (1) the coming year (次の年)
- (2) the coming trend (次の流行)

### ③ 【変化する】

(1) May all your dreams come true.  
(あなたの夢が全部かないますように)  
▶「ある状態にくる」からの連想。go は悪い。come はよい方向への変化に使われる強い傾向があります。Things sometimes go bad but they usually come good again. (そのことは悪くなることもあるけど、またよくなってくるものだよ)。自分の身のまわりを本来の、あるべき、理想的な場所ととらえる。そこから離れるのは悪い動き——人間にはそうした認識の傾向があるってことですよ。He is completely gone. (カレ、完全にイッちゃってるよ)。ほら日本語と英語、同じでしょう？



### ▶ run を使ったフレーズ

#### (1) come to 動詞 (～するようになる)

■ I came to really like spicy food.  
(僕、辛いものがほんとに好きになっちゃったんだよ)  
▶変化の come です。to 不定詞は常に「→」と理解しましょう。「→以下の状態になった」ということ。

#### (2) How come...? (どうして…?)

- How come I wasn't invited?  
(どうして僕は招待されなかつたんだろう?)
- How come Helen didn't make it to the party?  
(なんでヘレンはパーティーにこなかったの?)
- ▶ Why ...? のくだけた表現です。「どのように・どういった過程を経て (how) 起こったのか」ということ。



### ● go にするか come にするか

会話で特に間違いが集中するのが go と come の選択です。

Husband: We're going to be late!

(夫:[玄関で待ちながら] もう遅れちゃうよ！)



Wife: OK, OK, I'm coming!

(妻:はいはい、今行くわよ！)

なぜ「今行くわよ」は I'm coming! となるのでしょうか。日本語の「くる」「行く」がいつも話し手のいる場所を中心を使われるのに対して、英語の come と go は話題で注目されている場所を中心を選ばれるからです。この場合、注目されているのは夫の場所。そこに近づく動きから coming となるのです。I'm going! なら旦那さんびっくり。go は注目点から離れる動き。「これから一緒に出かけるのにどこ行っちゃうんだよ」となってしまうんですよ。

expressway.

(高速と平行して走っている長い道を行った)

### (2) Who left the tap running?

(誰が蛇口を出しっぱなしにしたんだい？)  
▶「線路が走っている」——日本語でも使う意味の広がり。  
I have a runny nose. (鼻水が止まず) も、線を連想させるから。



### ④ 【変化する】

#### (1) The well has run dry. (井戸が枯れた)

▶ある状態に進むことからの連想です。

### ▶ run を使ったフレーズ

#### (1) run + 目 (危動型) (走らせる→経営する・運営する・動かすなど)

■ He gave me tips on how to run a meeting. (彼にミーティングを仕切るコツを教わった)

## RUN

走る・経営する、など



### 基本イメージ 【走る】

▶イメージは「走る」。半径ですが日本語の「走る」同様、人がランニングする以外にも幅広く使われます。

### 派生イメージ

#### ① 【さまざまな「走る】】

#### (1) There's a free shuttle bus that runs between the airport terminals. (空港ターミナル間では無料のシャトルバスが運行しています)

#### (2) That movie made shivers run down my spine. (その映画、背筋がゾクゾクした)

▶(2)は日本語でも「震えが走った」などと表現しますね。shiver(s) は「震え」。

### ② 【線状のもの】

#### (1) I took the small road that runs parallel to the

## BRING

もってくる、など



### 基本イメージ 【COME +モノ】

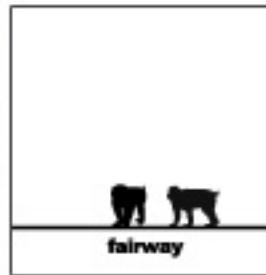
▶ come の動きが基本にあります。こちら側にやってくる、その方向性を大切に。主語は人とは限りませんよ。

#### (1) I'll bring my guitar. (ギターもってくるよ)

(2) The Internet has brought many changes to our everyday lives. (インターネットは私たちの日常生活に多くの変革をたらした)



in



on

さあ、最後の例です。もうなぜ前置詞が使い分けられているかわかりますね。感じ方の違いです。①は「フェアウェー（という範囲の中）に落ちた」が意識されているから *in*。②は単に「フェアウェーにサル」。ほら何も囲まれてる感じがしない。だから「上に乗っている」 *on* となるんですよ。

前置詞の選択は「感じ方」がすべて。杓子定規に考えず、妙な規則にとらわれず、ネイティブの感じ方——イメージ——をさまざまな例文を通して身につけることが大切なのです。章末に主要前置詞のイメージを詳しく解説しておきました。ぜひお読みくださいね。



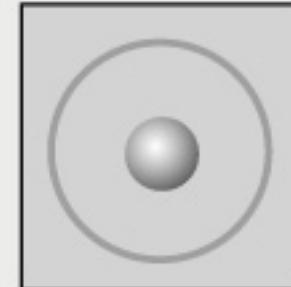
基本前置詞

前題同様日本語では学べない単語の範囲です。簡単な位置関係から、無数の日本語に対応する意味が生まれるからです。

ここでは前髪の基本イメージとそこから派生する、代表的な用法を解説しました。しっかりと身につけていきましょう。

## ABOUT

～について・約・およそ



基本イメージ【まわり】

- ▶ *about* のイメージは「まわり」。*around* とは同じイメージです。

第2章

◎ 約・およそ



- (1) I weigh about 58 kilos.  
(僕はだいたい58キロ)  
(2) Midnight? Gosh, it's about  
time we went home. (夜中の  
12時? げ。そろそろ帰る時間だ)

① 토토사이트



- (1) He gave a talk **about** cats.  
(彼はネコについてトークをした)  
▶「ネコについて（いろんなことを）話した」ということ。ネコにまつわるさまざまな内容を想定しています。「まわり」の **about** が使われるのは当然ですね。

### ●ざっくばらんな about cats とかたい on cats



「～について」と訳されるのは  
aboutだけではありません。on  
も同じように訳されることがあ  
ります。

- (1) He gave a talk **on** cats.  
ただしこの場合「専門的な話をした」といったニュアンス。**on** は「接触」の前置詞——「ネコそのものについて」という感触を連想から。ざっくりばらんぬ（アリウトな）**about**にせりして

カタく専門的な書きをもつ on。日本語訳「～について」だけでは前置詞は学べません。

### ▶ about を使ったフレーズ

(1) **be about to** (～しそう)

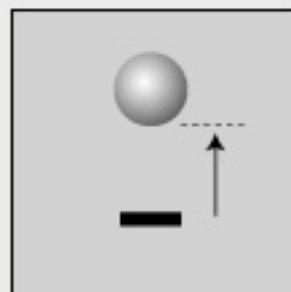
- Quick! The train is **about to leave**. (早く！ 電車行っちゃうよ)
- toは「ここだよ」と身しらず前置詞。leave(去る)を身しらずして「こここの近く(まわり)」ということ。

(2) **beat about the bush** (遠回しに言う)

- Don't **beat about the bush**. (遠回しに言うな)
- bush(茂み)のまわりを叩くことから。カンジンなどろにいたっていないうこと。

## ABOVE

～の上



### 基本イメージ【高さが上】

- ▶ above は「高さが上」ということ。

### 派生イメージ

① 【さまざまな「上】

- There's lots of banging coming from the apartment **above**. (アパートの上の部屋から、ドンドンという音がたくさん聞こえてくるんだよ)
- Just one drink is enough to be **above the legal limit**. (お酒一杯だけでも法律の制限を超えてきます)
- ▶ above は物理的な「高度」だけでなく、「高さ」が想起されるさまざまなケース——例

えが地位・年齢・重複などなど——にも使えます。

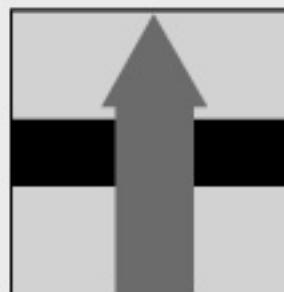
### ▶ above を使ったフレーズ

(1) **above all** (とりわけ・何よりも)

- Above all, relax and enjoy yourselves. (何よりも大切なのは、リラックスして楽しむこと)
- ▶ 「すべての中で(重要度が)最も高いのは」ということ。

## ACROSS

横切って



### 基本イメージ【十字】

- ▶ across は「横切る」。十字(cross)を作るように、ということ。

### 派生イメージ

① 【さまざまな「十字】

- They swam **across** the river. (彼らは川を泳いで渡った)
- There's a convenience store just **across** the street. (通りを渡ってすぐの所にコンビニがある)
- ▶ 前置詞はほとんどの場合、動きと位置のどちらもあらわすことができます。(1)は十字を作るような動き。(2)は通りを渡ってすぐの所という、十字を作る位置関係をあらわしています。

② 【～中】

- I rode my motorbike **across** South America. (南アメリカ大陸をバイクで旅行した)
- ▶ ある物体を「横切る」。ハジからハジまでとい

うことになりますね。

### ▶ across を使ったフレーズ

(1) **come across** (偶然見つける)

- I came across my graduation album this morning. (今朝卒業アルバムを偶然見つけた)



(2) **run across** (バッタリ会う)

- I ran across Terry in town today. (今日町でテリーとバッタリ会った)
- ▶ 「バッタリ」も同じ。示し合わせたわけではなく進行方向がクロス。

(3) **across the board** (全般的に)

- The economic crisis has hit businesses **across the board**. (経済危機はあらゆるビジネスに打撃を与えた)
- ▶ board(板)は、比喩的に関連のあるすべての人(モノ)を指しています。そのハジからハジまで。

(2) **Are you after anything in particular?**

(特に何かを探してですか？)

▶ 日本語訳はさまざまですが「ついていく」ということですね。

① 【順序】



- How about going to karaoke **after** class? (授業の後カラオケどう？)

- Shibuya comes **after** Harajuku, right? (渋谷は原宿の次だよね？)
- ▶ 「ついていく」から順序関係。学校帰りにカラオケ行かなければいけません。

② 【模倣】



- This is a painting **after** Picasso. (この絵はピカソの模倣です)
- ▶ 「ついていく」から「やり方に従う(模倣)」は自然つながり。

### ▶ after を使ったフレーズ

(1) **look after** (世話をする)

Can you **look after** my son while I'm away? (私が出かけているあいだ、息子の世話をしてくれる？)

▶ 誰かの世話をするととき、私たち体危険が及ばないように「後ろから」目配りをしますよね。だから look after. もちろん犬の世話にも使えます。

(2) **name ... after** ~ (…を～にちなんで名づける)

We **named** our daughter **after** her grandmother. (僕たち、娘をおばあちゃんにちなんで名づけたんだ)

▶ 名前がおばあちゃんに「ついていく」。

(3) **take after** (似ている)

Do you **take after** your Mom or your Dad? (君は母親似？ それとも父親？)

▶ 誰だけでなく性格・行動にも使えます。「後ろをついていくって、特徴を take する(とる)」といふイメージ。

(4) **ask after, inquire after** (尋ねる)

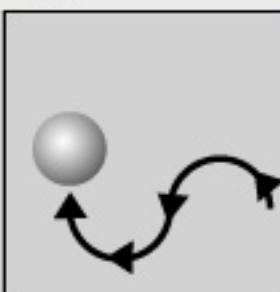
Rie **asked after** you at school today. I think she fancies you!

(今日リエが学校で君のこと尋ねていたよ。彼女、君に気があるんじゃないかな！)

▶ 「彼、どんな顔？」と尋ねていたってこと。「情報を追っかけている(after)」感触があります。inquire after は、より力強い言い回し。

## AFTER

～の後



### 基本イメージ【ついていく】

- ▶ after は「後ろからついていく」。「～の後」の順序関係もそこから生まれます。

### 派生イメージ

① 【さまざまな「ついていく】

- The police are **after** him. (警察が彼を追いかけています)

□ **to** を使った表現(1) **To tell the truth**, he is a real jerk.

(本当のこと言えば、アイツはすごくやな奴なんだよ)

**to** 不定詞は話し手の発言態度と大変相性のいい形です。ほかにも、**to be honest** (正直に言うと)、**to be sure** (確かに)、**to make the matter worse** (さらに悪いことには)、**to be frank with you** (率直に言って)、**to put it bluntly** (單刀直入に言えば)など、さまざまな決まり文句があります。

**to** 不定詞は、「指し示す」ニュアンスを伴った大変目立つ要素です。文頭に置くと、居住まいを正す感触が文に付け加えられます。まあ、「本当のこと言うとね」で会話を始めるヤツは、なかなか本当のことを言わなかったりもするのですが、ね。

□ **to one's** 感情 (~したことには)(1) **To my surprise**, he passed the test.

(驚いたことに、彼はそのテストに合格した)



**to** は、**to one's disappointment/sorrow/delight** (ガッカリした／悲しかった／大変喜んだことに)など、さまざまな感情と組み合わされます。これも **to** の「指し示す」から。後続文の内容が、感情とガッチリ結び付いていることをあらわしています。

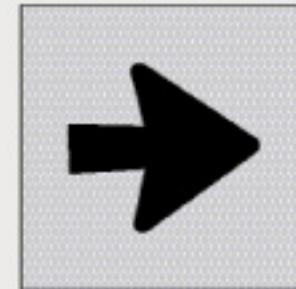


# 基本副詞

副詞として使われる語句の中には、文に多彩なニュアンスを添えるものがいくつあります。短く・ちょっとした意味を付け加えるこれらの単語は、大変難解な語感をもっており、日本訳ではなかなか正確することができません。でも私たちには強力な武器——イメージがあります。基本副詞の世界によこそ。

## so

すごく・だから、など



## 【基本イメージ】 [矢印]

▶ **so** は極端に多彩な単語。強制副詞としても、先行文説を受ける語としても、あるいは接続詞としても使います。イメージ「→」が単純なゆえ、多様な使い方を生み出しているのです。

## 【派生イメージ】

## ① 【強制】

(1) These puppies are **so** cute!

(この子犬たちとってもかわいい!)

▶ **very** よりも感情的乗った強制表現。「とっても」。ただ、**very**との違いは強さだけではありません。そこには「だから(→)」が感じられています。この文は「とってもかわいい」(だからギュッと抱きしめちゃいたい!)など、「だから」の余韻が感じられるのです。

## ② 【接続】

(1) I forgot my girlfriend's birthday, **so** she got really mad at me. (彼女の誕生日忘れちゃったから、すっごく怒られた)  
▶ 「→」を文をつなげる接続詞として使っていきます。

## ③ 【前の内容を受ける】

(1) Has Tim arrived yet? —— I don't think **so**. (ティムはもうきた? —まだと思う (そうは思わない) よ)

(2) I love Lady Gaga. —— **So** do I. (レディ・ガガ好きなんだ。——僕もだよ)  
▶ (1) **do so** (をする), **say so** (そう言う) など、**so** には前の内容を受ける使い方があります (☞P.647)。「そーんふうに」と前の内容を

その感覚。(2)動詞 **do** が生産(1)の前に出た強調形  
((=P.536)) を取っていることに注意しましょう。「僕もたよ！」と相手の発言に飛びつく勢いのある表現。**Me too.** (僕もです)との違いはあきらかですね。

▶ **so** を使ったフレーズ

- (1) **so ... (that)** 文 (とても…なので～【結果】)  
■ I was **so tired** I couldn't sleep.  
(疲れすぎて眠れなかった)  
▶ **so** の「→」が「結果」の使い方につながっています。「とても疲れた(だから)」という **so** の余韻に、結果を示す文が続いているのです。同じ強調語でも、**\* very tired I couldn't sleep** は不自然。**very** には「→」の感覚がないから。  
▶ **so ~ (that)** の **that** はもちろん「文を卒めらかに・正確につなぐ」**that**。この例文程度の内容なら、僕は **that** を使いません。「疲れて眠れなかった」、こんな簡単な内容を正確につなぐ必要はないからです。**The teacher's explanation was so long and complicated that not even the best students could follow it.** (その先生の説明はあまりに長く複雑だったので、最もできる学生でもついていくことはできなかった)。これくらい長く複雑な文になると、しっかりと **that** でつなげてあげたくなりますね。「目的」をあらわす **so (that)** 文、**so as to**についても((=P.632))を参照してください。

**SUCH**

そのような・とても、など



## 基本イメージ 【矢印】

- ▶ **such** は「そのような・このような」。もちろん何かを「指す」イメージです。

## 派生イメージ

## ① 【そうした類の】

- (1) These kids are amazing. They train every day, rain, hail or shine. **Such dedication is hard to find these days.**

(この子たちはすごいよ。毎日雨の日もひょうが降る日も晴れてる日も練習に明け暮れている。こうした熱意は最近滅多に見られないモノだ)  
▶ その場にあるモノや、それまでの文脈を指して「そのような」。

● **such** の作る形に注意！

**such a nice person** (**\* a such nice person**) のように、**such** は a [an] の前に置きます。

## ② 【無意味】

- (1) Shinobu is **such a geek!**  
(しのぶはすっごいオタクなの！)  
(2) I've never seen you wearing **such bright colors.** (そんな明るい色を着ている君を見たことないよ)  
▶ 強意で使われると、**such** 体感高説を示します。You can't get better (more terrible). (これ以上「ひどい」はないよ)ってこと。**a geek such as I've never met before** (僕が見たことないようなオタク) というキモチが伝わっています。

▶ **such** を使ったフレーズ

- (1) **such as ...** (…のようない)  
■ I like different kinds of movies, **such as action, horror, comedy, and so on.**  
(僕はいろんな映画が好き。アクションとかホラーとかコメディなどなど)  
▶ 「そのような」と言ってから **as** 以下に例を並べます。相手に例をあげてもらうときにも、使えますよ。  
■ I think our school has many good points.

— **Such as?** (僕たちの学校にはたくさんいいところがあると思う——例えば?)

(2) **such ... that ~** (とても…なので～)

■ He was **such a loser that I dumped him after the first date!** (彼、すごく情けなかったから最初のデートで捨てたわよ！)

▶ **such** が大きな強調を **a loser** に置いています。そしてどうした結果をもたらすほどの **loser** だったのかを **that** 以下で指し示しているのです。「目的」をあらわす **such that** 文、**In such a way that (in such a way as to)** に関しては((=P.632))を参照してください。

●「～も」の **too**

I love you, **too.** (僕も君が好きだよ)  
「～も」と文に添える **too**、この **too** は「～すぎる」 **too** とは、別物。混同しないでね。

**RATHER**

かなり・むしろ、など



## 基本イメージ 【対比】

▶ 強調で使われますが、それほど大きな強調ではありません。

- (1) This steak is **rather tasteless**, don't you think? (このステーキ、かなりまずいな。そう思わない?)  
▶ **rather** の後ろには対比のキモチが隠れています。「思っていたよりもまずい」といった対比。この意識がさまざまなフレーズに生きています。

▶ **rather** を使ったフレーズ(1) **would rather ~** (むしろ～したい)

- Lots of people are into sports or hobbies, but I'd **rather just hang out with my mates.** (スポーツとか趣味とかに入れ込んでいる人は多いけど、僕はむしろ友達とふらふらしてみたいな)  
▶ **rather** の対比の意識が色濃くあらわれたフレーズ、「(スポーツとか趣味とかより) むしろ…」という意識です。否定は **rather** の後ろに **not**。I would rather **not comment.** (コメントしたくないな) のようになります。

(2) **but rather** (そうじゃなくて)

